

**平成16年度
「学生による授業評価」
報告書**

平成17年8月

宮崎大学農学部

はじめに

宮崎大学では、ファカルティー・ディベロップメント（FD）活動，すなわち，教員による授業の内容および方法の改善を図るための活動を支援することを目的に、「学生による授業評価」を平成9年度から全学的に実施し，その結果を公表してきた。農学部は，平成13年4月，各学科から選出された委員により構成されるFD委員会を設置し，平成13年度に実施された「学生による授業評価」の結果を報告書として取りまとめた。以来，年度ごとに「学生による授業評価」報告書を作成し，全教員に配付している。

平成13年度および14年度の2回の報告書は，授業評価における各質問項目について，評価結果を学科毎に集計し，学科教員の平均値として表示する形式で取りまとめられた。平成15年度は，個人レベルで評価すべき点，改善すべき点などを明瞭にするために，授業に対する受講学生の評価を教員個人の単位で集計し，併せて学生からのコメントを学科ごとに記載する形式の報告書を作成した。平成16年度の本報告書は，平成15年度の授業評価の結果との比較，つまり各教員が改善を検証することができるよう，平成15年度と同様の編集方針で取りまとめられた。また，本報告書は，学部レベル，学科単位での学生の意向も読み取れる内容となっている。

本学の「中期目標・中期計画」においても「学生による授業評価」を活用し，教育の質の改善を図ることが明示されている。各教員におかれては，本報告書に記載された各自の評価結果を検討され，継続的な授業改善につないで頂くようお願いする次第である。

平成17年8月25日

宮崎大学農学部長 小八重 祥一郎

目 次

	ページ
平成16年度「学生による授業評価」の実施に当たって	1
FD報告書について（ご報告）	2
1. 授業評価実施の方法	3
2. 評価結果の表示	3
3. 各学科における授業評価結果	
(1) 食料生産科学科	4
(2) 生物環境科学科	11
(3) 地域農業システム学科	20
(4) 応用生物科学科	30
(5) 獣医学科	40
4. 授業評価の総括	49
5. 農学部評価室（FD部会）委員名簿	50
資料1	
平成16年度「学生による授業評価」における調査票（質問用紙）	51
資料2	
平成16年度「学生による授業評価」実験・実習に関する調査票（質問用紙）	54

平成16年度「学生による授業評価」の実施に当たって

「学生による授業評価」は、授業を提供している大学の評価のひとつの側面がある。これまで一方的に学生の学力や成績を評価してきた教員が、その授業について学生から評価を受ける「学生による授業評価」がほとんど大学で定着してきている。

宮崎大学農学部では平成13年に「農学部FD委員会」を設置し、授業評価項目のアンケート原案を作成し、授業評価の学部的な取り組みを始めた。平成13年度報告書は、農学部で提供されている講義、実験・実習のうち、基礎専門・専門講義科目の授業評価について取りまとめられ、初めて公表された。平成14年度は、複数教員で実施した講義および実験実習を対象として報告書が取りまとめられた。いずれの報告書も学科単位での取りまとめた評価の平均値を示すものであった。平成15年度は、これまでの取りまとめ方から一歩踏み込んで、教員個人単位で授業評価を取りまとめ、併せて学生の声を汲み取るため調査票（回答用）記述欄のコメントを集約し記載した。

平成17年4月に自己点検・評価委員会とFD委員会が統合され、評価室として発足したことに伴い、平成16年度「学生による授業評価」報告書を取りまとめるに当たって、農学部評価室FD作業部会を設置した。本作業部会でその編集方針について慎重な議論を重ね、平成15年度報告書における教員ごとの評価結果を活かし、改善の度合いを各教員に把握して頂くことを目的として、平成15年度の編集方針を踏襲することとした。また、授業評価のアンケートの方法についての本作業部会での議論を踏まえ、その改善を図りたい。

この年度ごとに公表されている授業評価報告書を個々の教員による教育の質の向上を目指した継続的改善へ役立てて頂くことを期待する。

最後に、今回の授業評価を実施するにあたり、協力頂いた学生諸君および教員各位に農学部評価室を代表して謝意を表したい。また、取りまとめにご支援頂いた事務方にも感謝する。

農学部評価室

室長 水光正仁
室長補佐（FD担当） 太田一良

平成17年 8月22日

農学部教員各位

農学部評価室長 水 光 正 仁

FD報告書について（ご報告）

平成17年7月19日の教授会において、平成17年度FD報告書として、「学生による授業評価を教員個人単位で整理して公表する」ことを説明したところ、個人情報保護法に抵触するのではないかと指摘がありました。これについて、全学評価室および情報広報室において検討した結果、次のような見解が示されました。従って、17年度FD報告書作成の経緯について改めてご説明すると同時に見解についてもご報告致します。

1. FD報告書のとりまとめの経緯：

農学部評価室内のFD作業部会では、平成16年度に実施した授業評価結果を各教員の教育改善に役立てることを目的として、報告書（FD報告書）の形でとりまとめることとしました。なお、とりまとめの方法としては、以下のような形で学内公表することとする。

- 1) 複数の講義科目を担当している教員では、これらの講義科目の平均値を使用する。
- 2) 授業評価を公表する場合、教員個人単位で行うが、教員個人は特定できないようにする。

2. 全学評価室・情報広報室における「授業評価の教員個人単位で学内公表」することに対する見解：

個人情報保護法（利用及び提供の制限）では、「保有している個人情報は、法令に基づく場合を除き、利用目的以外の目的に利用・提供してはならない」と規定されています。しかしながら、同時に、「独立行政法人等」では「法人内での目的外利用について相当な理由がある」時は、「目的外で個人情報を利用することは可能」となっています。

学生による授業評価の目的は、授業の改善につながることから、本学の中期目標・中期計画および平成16年度事業計画の中に既に記載（大学として承認している）しているところです。一方、教員個人単位で学内公表することが個人情報保護法に抵触するのではないかと疑問について、全学評価室・情報広報室では、上記の「相当の理由」とみなすことができるとの見解を示しています。

以上のような理由で、7月の教授会において説明しましたように、17年度FD報告書として、16年度授業評価を教員個人単位（個人は特定できないようにする）で整理し、学内公表を行いたいと考えています。

以 上

1. 授業評価実施の方法

授業評価のアンケートは、授業担当教員が質問用紙とマークシート方式の回答用紙を任意の時期（通常は講義の終了時か試験時、実験・実習にあっては終了時）に配布し、実施した。質問用紙は講義用（資料1）と実験・実習用（資料2）の二種類を用意し、いずれの質問用紙も15項目の調査事項から成り、必要に応じて教員が独自に質問事項を追加できるような形式となっている。また、回答用紙には、改善を求めたいこと、その他意見や感想など自由に述べることのできる記述欄が設けられている。

アンケートの集計は、教員が授業評価の質問用紙（記述欄を含む）と回答用紙を回収した後、学科担当の非常勤職員の協力を得て、マークシートに●印で回答された用紙についてコンピュータ読取装置により効率的に行った。集計結果は、授業担当教員へフィードバックされるとともに、当該学科のFD委員にも報告される。

2. 評価結果の表示

平成16年度授業評価の結果を取りまとめるに当たり、次の方針に基づき集計・表示した。

- ① 単独の教員による講義科目を対象とし、演習、実験、実習科目および複数教員による科目は集計から除いた。
- ② 学生による授業評価のアンケート調査を質問1から質問15について実施し、質問4を除く14項目ごとに教員単位で集計した。質問4「教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合注意していましたか」は、その質問の性格上集計になじまないことから除外した。
- ③ 質問14と15の予習・復習の質問については、「5：した」と「4：少しした」の差はあっても同質の回答と考えて一括して扱い、合計をそれぞれ「予習をした」、「復習をした」の百分率で示した。
- ④ 教員ごとに講義科目数が異なることから、集計結果は平均化した。
- ⑤ 集計の結果から教員が特定できないように、教員をアルファベットで表記し、その配列は順不同とした。
- ⑥ 「学生の声」が反映されるよう回答用紙の自由記述欄に書き込まれた学生からのコメントについても「評価された点」と「改善を求められた点」に項目を分けて学科ごとにまとめた。

3. 各学科における授業評価結果

平成16年度に実施したアンケート調査のうち、特に単独の教員で実施した講義を対象として学科ごとに取りまとめた授業評価の結果は以下の通りである。

(1) 食料生産科学科

1) 対象教員

食料生産科学科教員のうち、講義科目担当教員（教授、助教授、講師）の18人を対象に集計した。演習、実験、実習、アンケート調査の未実施の教員、複数教員による講義は対象外とした。学生による講義評価は質問事項の各14項目について教員毎に平均値で表した。

2) 教員ごとの講義科目数と受講学生数

対象となる講義科目数は前・後期で29科目であった。教員ごとに対象となる講義科目数は異なり、演習、複数教員による講義などを除くと、多い教員では4科目、少ない教員では1科目と幅があった。これにさらに複数教員による講義が全員に数科目ずつ加わる。

対象となった講義科目ごとに受講学生数には差があり、多い科目では149名、少ない科目では21名であった。教員一人あたりで一科目あたりの受講学生数は、多い教員では82名、少ない教員では23名、平均では55.6名となった。これは複数教員による講義を除いており、これら講義を受ける学生は概して数が多いので、一科目あたりの受講学生数はさらに上昇することになる。

3) 集計結果および分析

教員毎の講義評価の集計結果を表1-1とグラフ（図1-1～図1-2）で示した。学生からのコメントは表1-2に示した。

教員別に見ると、高い評価を受けた教員とそうでない教員には差がみられる。評価を上げるには、その対策が必要であり、以下、質問ごとに考察を行う。質問と関係する学生のコメントは、その時に取り上げ記述する。

【講義方法に関する項目】

○質問1：「講義は聞き取りやすかったですか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で82%であった。教員別に見ると、最高92%、最低42%であった。85%以上を評価された教員が7人おり、概して学生には聞き取りやすい講義が行われているといえる。講義の聞き取りやすさの評価が低い講義において、学生のコメントから対策を考えると、講義の話す声の大きさ・スピード・明瞭さが改善されればよいことがあげられる。

○質問2：「講義を進めるスピードは適切でしたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で83%であった。教員別に見ると、最高95%、最低58%であった。85%以上を評価された教員が7人で、全体的にみても評価が高く、講義はスムーズに実施されていると言える。早すぎる講義に対する指摘もみられるので、理解の充実のためにも語尾を明瞭にゆっくりのスピードがよいかもしれない。

○質問3：「講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか」

多くの教員が視聴覚機器を使用した講義を行っているようで、本質問に対する学生の評価は学科

平均で71%であった。教員別に見ると、最高96%、最低33%であった。85%以上の評価をされた教員が7人いたが、50%以下の評価を受けた教員も2人いた。学生のコメントから、ビデオやプロジェクターを有効に併用、プリントを配布することにより理解を深めさせるようである。OHPなどの使用の際には、レイアウト（文字サイズ・フォント、デザイン、配色、構図、図・写真の挿入、配置等）の工夫・改善と照明環境ならびに速度を考慮する必要がある。

○質問4：「教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で50%であった。教員別に見ると、最高89%、最低15%であった。学生からのコメントとして静かな講義にはあてはまらないので、回答しにくいとの記述がみられた。学生の途中入室・退室などは当人の自己管理でよいのではと考える学生もある。頻繁にする状況などは指導も必要である。

○本項目（質問1～3）の総合的評価

講義方法において1から3を平均し、総合的にみた場合、良いと考えている学生パーセントは平均79%で、50%台2名、60%台4名、70%台1名、80%台10名、90%1名で、対象教員18名のうち平均以上の教員数は11名という結果になった。

平均79%は比較的良好な数値と考えられ、殆どが適切な講義方法で実施されていると考えられる。なお学生の半数以上が適切でないと考える講義方法をしている教員はなかった。一方、90%に満足を与える講義方法と評価を受けた教員もみられた。

講義方法で高い得点がえられている講義について、プロジェクターやビデオの使用、プリントの配布がよかったと評価している。参考資料の数が多し・図表の文字が小さいと感じている学生もある。なお、プロジェクター使用の注意点は、事前の調整とスピードに注意する。真っ暗にするとノートがとりにくいという欠点や眠気を誘うなどの記述もあるので、工夫がみつようである。これら機器の使用の際は、真っ暗にせず、教室後方の窓などのカーテンを少し開いておいたり、一部の照明をつけておいた方がよいようである。

【講義内容に関する項目】

○質問5：「配布したシラバスは講義の内容・進め方について解りやすく書いてありましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で71%であった。教員別に見ると、最高94%、最低53%であった。シラバスの内容等について、学生へのアナウンスを徹底する必要がある。

○質問6：「この講義全体の目標はよく理解できましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で87%であった。教員別に見ると、最高100%、最低63%であった。90%以上の評価を受けた教員が9名おり、最低でも7割程度を取得しているので、特に改善は求められないと思われる。各教員が講義全体の目標を明確にしつつ講義を担当していることが推察される。今後も、引き続き努力をする必要がある。

○質問7：「この授業に興味をもてましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で87%であった。教員別に見ると、最高100%、最低でも

64%であった。全般的に高い評価であり、ほとんどの学生が講義に興味を持っているので、このまま維持したい。

○質問8：「毎回の授業のねらいはその都度明確にされていましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で81%であった。教員別に見ると、最高96%、最低50%であった。7人の教員が85%以上の評価を受けた。低い評価では講義間の内容の重複部分をなくしたり、重複部の重要性や意義を説明することであろう。

○質問9：「毎回の授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で95%であった。教員別に見ると、3人の教員が最高の100%、最低84%であった。各教員の講義準備は多くの学生が高く評価している。

○質問10：「授業での説明は理解しやすかったですか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で85%であった。教員別に見ると、最高97%、最低47%であった。90%以上と評価された教員が9人いた。低い評価の講義では、学生のコメントから、要点が分かりにくかったためと思われる。

○質問11：「授業の内容は難しく（難易度）感じましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で82%であった。教員別に見ると、最高95%、最低48%であった。85%以上と評価された教員が6人であった。難易度は全般的に適切であると考えられる。

○質問12：「授業内容の量は、適切でしたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で78%であった。教員別に見ると、最高93%、最低41%であった。85%以上を評価された教員は4人であった。講義内容の量については全般的に適切であると考えられる。

講義内容に関する質問5～12の平均83%という数字は高いものと考えられ、満足のゆくものである。なお、最低でも60%以下はなく、全教員によって、適切な講義内容が実施されていると考えられる。講義内容の学生によるコメントでは、高い得点を反映して、好意的意見が殆どを占め、内容に興味を持てた、わかりやすい講義であった、おもしろかったというのが多かった。得点がやや低かった講義では、学生のコメントから、内容が難しいという点が主な原因であった。

全般的に講義内容としては適切であると考えられ、得点パーセントレベルとしては、現状維持程度でよいのではないかと考えられる。難しい内容を分かりやすくする努力は必要と思われる。

【学生自身の学習態度に関する項目】

○質問13：「この授業に興味を持ち、自主的に調べたことはありますか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で33%であった。教員別に見ると、最高50%、最低21%であった。全般的に低い結果となった。大学の講義における学生の自主性を導くことの困難さを示している。

○質問14：「この授業について、予習しましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で50%であった。教員別に見ると、最高66%、最低36%であった。大変ばらつきの多い結果となった。

○質問15：「復習をしましたか」

本質問に対する学生の評価は学科平均で72%であった。教員別に見ると、最高85%、最低54%であった。50%以下の評価を受けた教員はいなかった。

○本項目（質問13～15）の総合的評価

学生自身の学習態度は3項目の平均で52%、自主性が33%、予習が50%、復習が72%と一般的に低い数値となった。おそらく大学の講義として、予習、復習を義務づける講義は少ないものと思われることがこのような結果になったものと思われる。予習、復習を義務づければ、これらの点は向上するかもしれないが、むしろ、自主的に調べる学習態度こそが好ましく、今後この点を伸ばしてゆくことが課題かもしれない。

【その他】

特にプロジェクターやOHP等を使って部屋を閉め切らなければならない場合には、学生の学習意欲や学習能力の大きな低下をきたすようである。適度に照明やリフレッシュできるような工夫が必要である。「講義受講者数に対して講義室が狭い」と感じる学生がおり、考慮する必要がある。

【平成15年度と16年度の比較検討】

平成16年度は、平成15年度の集計方法の取りまとめを行った。ここでは、2年間の比較検討を行った。以下に結果を述べる。平成16年度の学科平均は平成15年度の場合と比較して、講義方法で4%上昇、講義内容で1%上昇、学習態度で2%減少、2年間で特に大きな変化は見られなかった。また、教員別においても、平成15年度に評価の低かった教員は依然低い評価が継続している。平成15年度は初めて教員別に集計を行ったが、アルファベット表記による匿名性に配慮したため、評価の低かった教員には十分に内容が伝わらず、講義の改善が行われなかったようである。

評価の高い教員の講義に対するコメントの特徴は：

- ① 配布参考資料の質と量が適切である（カラーできれい）
- ② 視聴覚機器の使用方法が適切（写真が多い・興味を引く・飽きない）
- ③ 熱意が感じられる（質疑応答に対する回答が懇切・丁寧・理解可能で知識として残る）
- ④ 教員と学生相互の意思疎通がある（授業方法の改善が短期間に実施される）

評価の低い教員の講義に対するコメントの特徴は：

- ① 視聴覚機器の使用方法が適切でない（調整不良・スピード・単調な口調）
- ② 板書技術が適切でない（字が不明瞭・誤字脱字・要点が不明瞭）

学生のコメントを真摯に受け止め、早急に改善されたい。講義方法を指摘に基づいて改善され、学生の理解度の向上に努め、学習意欲の誘起を促すように取り組む必要がある。

表 1-1 教員別の集計結果 (食料生産科学科)

質問番号	質問内容	担当教員														平均				
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N		O	P	Q	R
「この授業方法に関する項目」																				
質問 1	講義は聞き取りやすかった	62	76	68	85	92	77	88	42	82	71	78	90	68	91	93	91	69	84	82
質問 2	講義のスピードは適切だった	58	62	94	85	76	85	75	66	87	70	91	84	74	84	91	95	75	84	83
質問 3	視聴覚機器は適切であった	33	63	96	85	94	77	93	50	95	65	88	81	51	72	89	73	61	58	71
質問 4	私語などを注意していた	71	58	15	89	34	75	40	37	66	61	89	52	24	26	47	35	82	32	50
	平均 (1-3)	51	67	86	85	87	80	85	53	88	69	86	85	64	82	91	86	68	75	79
「講義の内容に関する項目」																				
質問 5	シラバスはわかりやすかった	74	70	86	94	69	76	75	59	90	65	68	78	53	72	82	68	65	84	71
質問 6	講義の目標は理解できた	72	74	88	94	91	88	94	63	99	73	92	94	69	79	95	93	92	100	87
質問 7	講義に興味を持てた	78	71	92	89	94	87	94	64	99	71	91	88	71	90	92	93	91	100	87
質問 8	ねらいは明確にされていた	72	70	83	89	91	83	89	50	96	79	85	91	60	64	95	83	83	89	81
質問 9	授業の内容は準備されていた	87	91	98	100	97	94	98	84	99	91	100	97	91	88	97	97	97	100	95
質問 10	説明は理解しやすかった	54	73	88	96	92	92	92	47	96	71	90	93	57	88	97	96	85	84	85
質問 11	難易度は適切であった	48	81	82	83	88	75	93	68	81	66	81	79	76	86	89	95	84	89	83
質問 12	内容の量は適切であった	47	58	79	74	81	41	77	58	82	73	88	69	69	93	84	86	55	89	78
	平均 (5-12)	67	74	87	90	88	80	89	62	93	74	87	86	68	83	91	89	82	92	83
「学生自身の学習態度に関する項目」																				
質問 13	自主的に調べたことがある	32	27	20	34	31	43	41	24	33	30	26	36	21	45	50	28	21	42	33
質問 14	予習した	57	49	54	66	50	57	45	50	49	42	45	64	36	60	54	57	55	37	50
質問 15	復習した	80	66	73	87	76	85	66	61	80	65	61	85	54	79	75	76	71	84	72
	平均 (13-15)	56	47	49	62	52	62	51	45	54	46	44	62	37	61	60	54	49	54	52

数値は左の評価結果に該当する割合 (%) を示す。

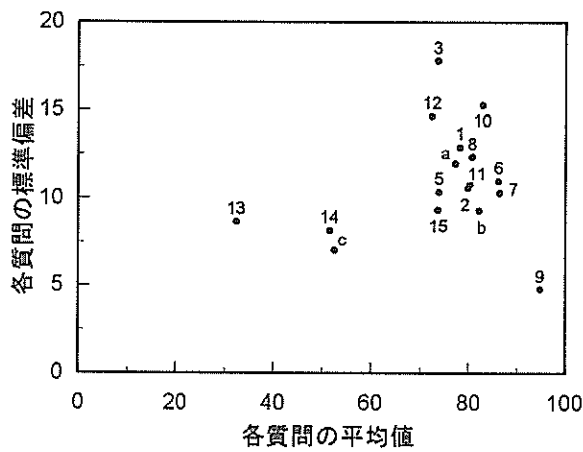


図 1 - 1 各質問ごとの全教員の平均値とその標準偏差の関係

図内の各数字は質問の番号を示し、aは質問1から3の、bは質問5から12の、cは質問13から15のそれぞれ平均値を示す。

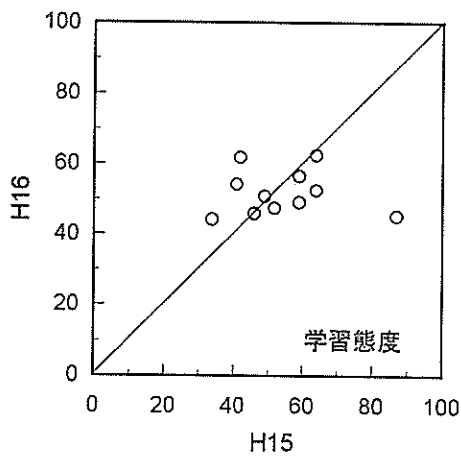
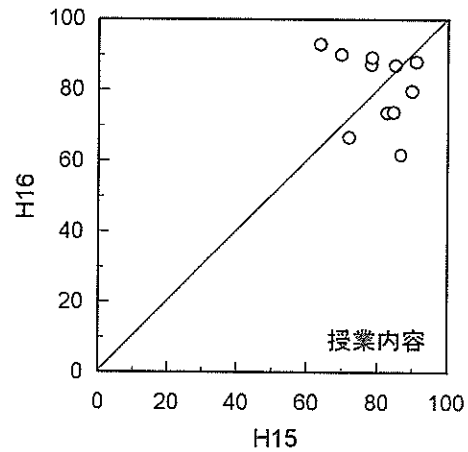
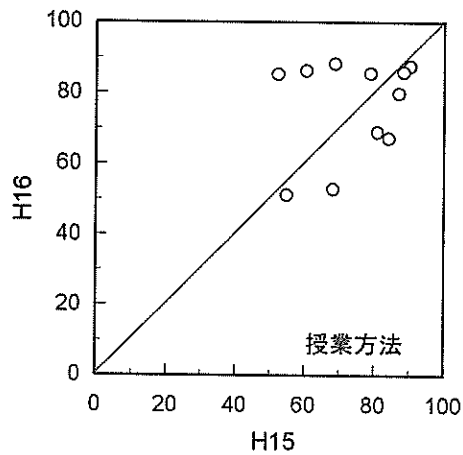


図 1 - 2 各教員における質問内容項目毎の平均値の平成15年度と16年度の比較
それぞれの点は教員を示す。

表1-2 学生のコメント（食料生産科学科）

	評価された点		改善を指摘された点	
講義方法に関して	• OHPとビデオがよい	17	• 板書が少し多かった	9
	• テスト2回がよかった	3	• 要点が分かりにくかった	7
	• プリントが用意されているので良かった	2	• 板書が見にくかった	6
	• 講義の熱意を感じた	3	• 授業の進み方が早すぎた	6
	• 小テストがよかった	3	• 早口のため分かりにくいこともあった	5
	• 質問にわかりやすく答えてもらった	2	• もう少し大きな声ではっきりと	3
	• 板書見やすかった	2	• 参考資料が多かった	3
	• 質問に丁寧に答えてくれた	2	• マイクを使ってほしかった	2
	• 内容に奥深さを感じた	2	• 説明を少しゆっくりと	2
	• テスト3回がよかった	2	• 脱線が多かった	2
	• きちんと準備がされていた		• ビデオにナレーションがほしかった	2
	• わかりやすかった		• 説明が丁寧だった	
	• 小テストで定期テストがないのがよかった		• 口述筆記はやめてほしい	
	• プリントが工夫されていてよかった		• 小テスト難易度を一定に	
	• 写真が多くてよかった		• レポート評価がよかった	
• スクリーンが見やすくてよかった		• プロジェクターの調整不良があった		
• スライドがきれいでした		• 板書をもう少しわかりやすく		
		• 板書を丁寧に		
		• プリントの誤字が多い		
		• 試験はやさしく		
		• 写真, プリントがほしかった		
		• 小テストがほしかった		
		• OHPに必死で説明がよく聞けなかった		
		• 教科書がほしい		
		• レポートの解説がほしかった		
		• ポイントをまとめてほしい		
		• 教科書中心で		
		• OHPをゆっくり動かす		
		• プリントの作成方法を統一してほしい		
講義内容に関して	• 興味を持てた	51	• 難しいところがあった	8
	• わかりやすかった	29	• 内容多かった	3
	• おもしろかった	27	• 役だった	3
	• 楽しく授業を受けられた	22	• もっと専門的なことを期待した	
	• よかった	16	• もう少し基礎的事項がほしかった	
	• ためになった	16	• 少し難しかった	
	• 最高	10	• レポートの課題を出してほしい	
	• 理解できるようになった	7		
	• 勉強になった	7		
• 具体的・経験的話がよかった	3			
に学習態度			• 遅刻を厳しく	
			• 覚えるのが大変	
その他	• 充実した日々を送れてよかった		• クーラーがきいていない	9
	• 前回の質問に答えたプリントがよかった		• 教室が狭く広い部屋で	6
			• 「分かっている」と決め付けないでほしい	
			• 遅刻は当人の問題（自分で管理）	

(2) 生物環境科学科

1) 対象教員

講義科目担当教員（教授，助教授，講師）の26名を対象として，平成15年度と同様に15質問項目について集計した。なお，アンケート未実施の教員は集計から除外した。また，複数教員で担当されている科目のアンケート結果も，集計から除外した。

2) 教員ごとの講義科目数と受講学生数

全調査科目（教員一人が単独で担当した科目）の数は48科目であった。教員1当りの平均調査科目数は1.9科目であり，もっとも多い教員で4科目を担当していた。このような授業科目担当状況は平成15年度調査時とほぼ同じである。受講生数では，30-40名が受講する講義科目が16科目と多く，40-50名の講義（13科目）とあわせると，全体の95%を占めた。1科目当りの受講学生数は最少で4名，最大で118名であり，平均は40名であった。以上，受講学生数に関する状況も，平成15年度とほぼ同じであった。

3) 集計結果および分析

平成16年度の集計結果を表2-1に示す。また，平成16年度における各質問項目の学科平均値を図2-1に示す。図2-2には，平成15年度および16年度の両方で調査集計を行った教員（21名）について，講義方法，講義内容，学習態度の大項目で集計された平均スコアの年度間比較を示す。

【講義方法に関する項目】

○質問1：「講義は聞き取りやすかったですか」

学科平均で82%の学生が聞き取りやすいと回答しており，この結果は前年とほぼ同様である。教員個人のレベルでは最大で15ポイント程度の変動が見られた。平成15年度に評価の低かった教員では上昇が多く，逆に前年度スコアの高かった教員でやや低下が見られたため，教員間の格差は全体的に小さくなる傾向にあった。

○質問2：「講義を進めるスピードは適切でしたか」

適切と回答した学生比率の学科平均は80%（前年度も80%）であり，スコアの範囲もほぼ前年と同等であった。個人のレベルでは極端にスコアの低下した教員も見られたが，このケースは受講生数の少なさが集計値の変動に大きく影響した可能性もある。

○質問3：「講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか」

適切と回答した学生比率の学科平均は74%であり，前年度の78%から若干低下した。教員人ごとのスコアの傾向は前年とほぼ同様であり，学生から評価の高い教員と評価の低い教員の格差は縮まっていない。評価の高かった点としては「カラーの資料」，「実物の観察」が挙げられており，改善すべき点として指摘された内容には「板書が見づらい」「配布資料の図表に説明がない」などのコメントが多く見られた。

○質問4：「教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか」
本質問に対する学生の回答の学科平均は49%であり、前年（47%）とほぼ同様であった。全体的に低いスコアは、前年度も指摘されていた。

講義方法に関する総合評価（質問1-3の平均）では、平成15年度と平成16年度の個人のスコアで増加と減少の両方が見られた（図2-2）。15年度のスコアの低かった教員数名で改善の傾向が見られ、学科内での講義方法がやや平準化されてきているようにも見えるが、一方で評価の下がった教員もある。個別の質問項目では、視聴覚機器利用など少なくとも絶対評価の低下が起きにくい項目でもスコアの低下がみられている。したがって、今回の比較で見られた年度間の変動は、この調査・集計手法による偶発的なバラツキの範囲と考えた方がよいだろう。

質問項目以外の自由記載コメントでは、前年と同様に「丁寧な説明」、「カラーの資料」、「質問への適切な対応」が高く評価されていた。一方、改善を指摘された点では、前年度と同様に「板書」や「スピード」、「配布資料の不親切さ」に関する不満が多かった。これらの結果は、前年の報告書でも指摘された「講義の中でのコミュニケーション」の重要性を示唆していると思われる。すなわち、学生からの要望や質問がしにくい（あるいはそれが受け入れられにくい）一方通行的な講義と、これとは対照的に学生が質問や要望を提出しやすい（あるいはそれが反映されやすい）講義との違いが、学生からみた講義方法の評価に大きく関与することを示しており、今後の講義方法改善において大きなポイントとなるであろう。

【講義内容に関する項目】

○質問5：「配布したシラバスは講義の内容・進め方について解りやすく書いてありましたか」

シラバスが適性と回答した学生比率は学科平均で80%であり、前年度（76%）より若干上昇した。教員ごとのバラツキは比較的小さく、年度間の変動にも特に傾向は見られなかった。

○質問6：「この講義全体の目標はよく理解できましたか」

学科平均で89%の学生が「よく理解できた」と回答しており、前年度（87%）と同様にこの項目についてはほぼ目標を達成していると考えてよいであろう。教員個人レベルでみた最低スコアも72%と他項目に比較して非常に高かった。

○質問7：「この授業に興味をもてましたか」

学科平均で86%の学生が「興味をもてた」と回答しており、この結果は前年度（85%）とほぼ同等であった。本項目は前項の講義目標設定と共に高い水準が達成しできていると判断される。ただし、教員個人レベルでの最低値は59%（前年度55%）と、前2項目よりやや低かった。

○質問8：「毎回の授業のねらいはその都度明確にされていましたか」

「明確にされていた」と回答した学生の比率は学科平均で87%（前年度は85%）であり、この項目も高い水準で達成できていると考えられる。ただし、個人レベルでは前年度と今年度の評価の相関が高い。また、前2項目（「講義目標」、「興味」）と本項目のスコアがいずれも低い教員がごく一

部に見られることから、個人のレベルでは一部改善が必要であろう。

○質問9：「授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか」

学科平均で95%の学生が「よく準備されていた」と回答しており、教員個人の最低スコアでも85%と高かった。教員による講義の準備状況については、前年度（93%）と同様にほぼすべての講義で満足できる水準を維持できていると言える。

○質問10：「授業での説明は理解しやすかったですか」

「理解しやすかった」と回答した学生の比率は学科平均で81%であり、前年度（81%）と同様にほぼ目標を達成しているといえる。ただし、一部でスコアの低かった教員も見られ、今後の改善が望まれる。

○質問11：「授業の内容は難しく（難易度）感じましたか」

「難易度が適切」と回答した学生の比率は学科平均で73%（前年度は75%）であり、ある程度は目標が達成できているといえる。ただし、次項目「内容の量」とともに、講義内容に関する項目の中では低いスコアであった。教員個人レベルでみた最低スコアも41%と、前年度（36%）と同様に低かった。難易度に関する評価の低さは、昨年度も指摘されており、今後改善の必要がある。専門教育においては、多くの場合一定水準の到達度や習得度が要求されるため、学生の評価のみに基づく難易度の設定は、専門教育全体の水準を維持する上で問題となりうるだろう。今後は学科カリキュラム全体の中での当該科目の位置づけや、入学生の基礎学力を考慮した適切な難易度の検討が必要である。なお、「講義のスピード（質問2）」のスコアと本項目「難易度」とのスコアには比較的高い相関（0.77）が見られた。したがって科目によっては、講義内容だけではなく講義方法の改善が、学生からみた難易度の適正化につながる可能性もある。平成15年度の報告書でも指摘されているように、この質問で実際に問われている内容は、学問的難易度ではなく、学生からみた講義内容の理解のしやすさである。したがって、次項の「講義内容の量」とともに、講義方法の改善と併せた改善策の検討が必要である。

○質問12：「授業内容の量は、適切でしたか」

講義内容に関する項目の中では「適切」と回答した学生比率の学科平均は74%であり、前年度（75%）とほぼ同様に、ある程度は目標が達成できているといえる。しかし、前項と同様に講義内容に関する項目の中ではスコアが低く、改善の余地があると考えられる。本項目「内容の量」のスコアと「講義のスピード」のスコアとの相関は、必ずしも高くない（0.40）ため、今後は難易度や講義方法を含めた総合的な改善を検討すべきであろう。

講義内容に関する総合評価（質問5-12の平均）は前年とほぼ同レベルの82%であり、教員個人のスコアの傾向も平成15年度と16年度で類似していた（図2-2）。また、個人スコアの年度間の変動幅は講義方法（質問1-3）よりも小さかった。講義内容に関しては、平均スコアが高いことから、平成16年度も概ね目標を達成できていると考えてよいであろう。その中で、難易度（質問11）および内容の量（質問12）のスコアがやや低かったことから、今後はこれらの点が学科全体の重点

的な改善目標となろう。

【学生自身の学習態度に関する項目】

○質問13：「この授業に興味をもち、自主的に調べたことはありますか」

「自主的に調べたことがある」と回答した学生比率の学科平均は33%であり、教員個人レベルでの最高スコア（67%）および最低スコア（6%）ともに、ほぼ前年度と同じであった。ただし、教員個人のスコアの年度間の変動が大きかった。

○質問14：「この授業について、予習しましたか」

「予習をした」または「少しした」と答えた学生比率は学科平均で50%と、ほぼ前年（52%）に近い値であった。教員個人の最高スコア（72%）および最低スコア（36%）値も前年度と同様の結果であったが、教員個人のスコアや順位の年度間の変動は大きかった。

○質問15：「復習をしましたか」

「復習をした」あるいは「少しした」と答えた学生比率は、学会平均で72%、最高で99%、最低で50%であり、ほぼ前年度と同じ集計結果となった。

学生自身の学習態度に関する総合評価（質問13-15の平均）は学科平均で52%であり、前年度と同じであった。教員個人スコアは年度間の増減が大きく、一定の傾向は認められなかった。学習態度に関しては、個人のバラツキや変動は大きいものの、学科全体として改善が必要な項目であるといえる。

【総合評価】

1) 学科全体の傾向と今後の課題

学科平均ではいずれの質問項目のスコアにおいても年度間の違いがほとんど認められなかった。教員個人別のスコアは年度間で変動が認められたが、増・減のそれぞれが同程度に見られるケースが多く、統計的な処理を行ったとしても年度間の変動（改善）傾向を捉えるのは困難であると予想される。結局、平成15年度から16年度にかけての授業改善の度合いは「不明瞭であった」と結論せざるを得ない。質問項目別に見ると、平成15年度と16年度の各教員のスコアに相関があるケースもあったことから、学科全体として、ほぼ前年度の同等の授業評価であったと考えるのが妥当であろう。

教員個人の個別スコアを見ると、バラツキの大きな結果であった。この原因として、後述するように集計方法にも今後改善すべき問題があるかもしれない。しかし、全質問項目の学科平均が2調査年度でほぼ同じ値（図2-1）であったことや、各教員の全質問項目の平均値に調査年度間で相関が見られた（0.76）ことから、現在行っている授業評価アンケートは、大きな傾向としては一定の再現性を有すると考えられる。したがって、その結果自体は真摯に受け止められるべきである。

平成15年度と16年度で共通した傾向は、学科平均の高い項目で教員間のバラツキが小さく、学科平均の低い項目で教員間のバラツキが大きいことである。したがって、学科平均値が低く、バラツキの大きな項目が、今後の学科の重点的な改善目標となるだろう。具体的には、講義内容および講

義方法に関して、質問3：「視聴覚機器」、質問11：「難易度」、質問12：「分量」などでスコアの低かった教員の今後の対応が望まれ、質問2：スピード、質問5：シラバス、質問10：聞き取りやすさ、などがこれに続くといえる。ただし、個別質問の項目で記載したように、難易度については専門教育全体の体系を見据えた対応も必要であろう。学科全体でスコアの低かった学習態度に関する項目については、ミニ・レポートや討論などの講義スタイルにも依存すると考えられることから、自主的学習の促進という観点で、講義スタイルに応じた方策の検討が必要であろう。

2) 授業評価および改善の問題点と今後のあり方

年度間で比較した改善の度合いが不明瞭であったことの解釈として、一つには、授業の方法や内容が実際に前年度と変わっていない可能性が考えられる。その理由としては、平成15年度の授業評価の成果（平成16年8月報告）が、平成16年度の講義ではまだ反映されていなかったことなどが考えられるであろう。もう一つの解釈としては、現在の調査集計手法の限界が挙げられる。平均40名程度の受講生数の講義の評価で、設問に「適切」と答える学生比率が有意に増加するには、20ポイント程度以上の増加が必要である。ところが、平成15年度調査の段階で既に、多くの質問項目において平均80%以上の評価を得ていたことから、そもそも改善を数値的に評価できる余地が小さかったという解釈もありうる。また、教員個人を単位として結果を集計しているため、受講生数や開講年次の違いなどの影響が捉えられなかった可能性も考えられる。

以上のように、現在行っている調査・集計方法、および報告の形式では、実際の授業改善を促進する上で、あるいは改善の度合いを的確に評価する上で、手法的な限界があるのかもしれない。

表 2-1 教員別の集計結果（生物環境科学科）

質問番号	質問内容	担当教員																										平均	
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z		
「この授業方法に関する項目」																													
質問1	講義は聞き取りやすかった	82	56	93	94	79	80	79	95	85	77	81	88	47	71	70	66	100	70	98	92	98	83	91	85	80	100	82	
質問2	講義のスピードは適切だった	90	81	82	69	78	91	49	47	94	83	83	88	77	66	84	77	94	78	92	82	74	85	95	97	67	86	80	
質問3	視聴覚機器は適切であった	64	76	92	100	56	49	64	75	72	67	52	88	57	97	71	46	99	86	89	78	73	69	77	74	58	86	74	
質問4	私語などを注意していた	84	27	75	75	35	22	52	50	48	38	46	59	28	86	77	28	42	82	64	25	66	31	33	26	58	29	49	
平均 (1-3)		79	71	89	88	71	73	64	72	84	76	72	88	60	78	75	63	98	78	93	84	82	79	88	85	68	91	79	
「講義の内容に関する項目」																													
質問5	シラバスはわかりやすかった	63	75	74	84	79	79	72	70	86	93	79	90	67	80	90	65	91	82	81	77	86	80	86	79	76	86	80	
質問6	講義の目標は理解できた	86	81	90	84	91	88	87	95	92	89	88	92	72	88	100	72	98	82	92	91	92	93	88	88	91	96	93	89
質問7	講義に興味を持てた	82	79	89	100	85	87	81	93	91	89	85	92	59	90	99	63	90	84	95	83	81	93	88	91	91	79	86	
質問8	ねらいは明確にされていた	82	83	87	100	90	79	96	95	76	94	77	96	69	91	100	58	98	75	86	92	93	74	91	94	98	86	87	
質問9	授業の内容は準備されていた	95	94	93	100	100	90	93	85	94	100	88	98	86	98	100	85	99	96	98	97	97	96	93	94	98	100	95	
質問10	説明は理解しやすかった	86	70	90	88	70	85	70	84	85	77	74	92	57	82	99	36	98	76	97	88	86	91	88	68	91	86	81	
質問11	難易度は適切であった	88	73	81	56	55	90	42	53	78	67	66	88	63	58	91	41	87	75	91	63	64	87	93	91	76	93	73	
質問12	内容の量は適切であった	85	59	57	81	71	87	46	79	91	53	77	80	51	75	92	71	81	50	89	66	75	78	93	88	58	86	74	
平均 (5-12)		83	77	83	87	80	86	73	82	87	83	79	91	66	83	96	61	93	78	91	82	84	87	90	87	86	89	83	
「学生自身の学習態度に関する項目」																													
質問13	自主的に調べたことがある	28	25	25	50	66	13	30	60	38	45	42	22	16	28	57	14	31	23	18	20	24	59	35	26	49	7	33	
質問14	予習した	47	53	51	50	44	52	63	68	51	47	59	49	41	49	37	43	60	53	44	36	46	50	72	41	38	50	50	
質問15	復習した	78	78	77	84	66	63	84	67	76	64	82	63	50	77	99	61	74	59	67	69	73	80	91	65	73	57	72	
平均 (13-15)		51	52	51	61	59	43	59	65	55	52	61	45	36	51	64	39	55	45	43	42	48	63	66	44	53	38	52	

数値は左の評価結果に該当する割合 (%) を示す。

[生物環境科学科]

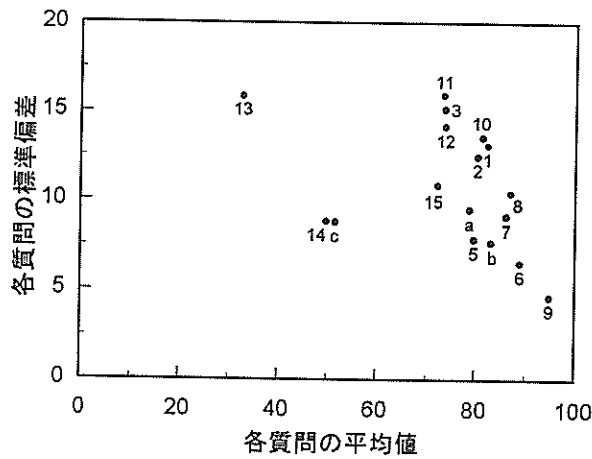


図 2 - 1 各質問ごとの全教員の平均値とその標準偏差の関係

図内の各数字は質問の番号を示し， a は質問 1 から 3 の， b は質問 5 から 12 の， c は質問 13 から 15 のそれぞれ平均値を示す。

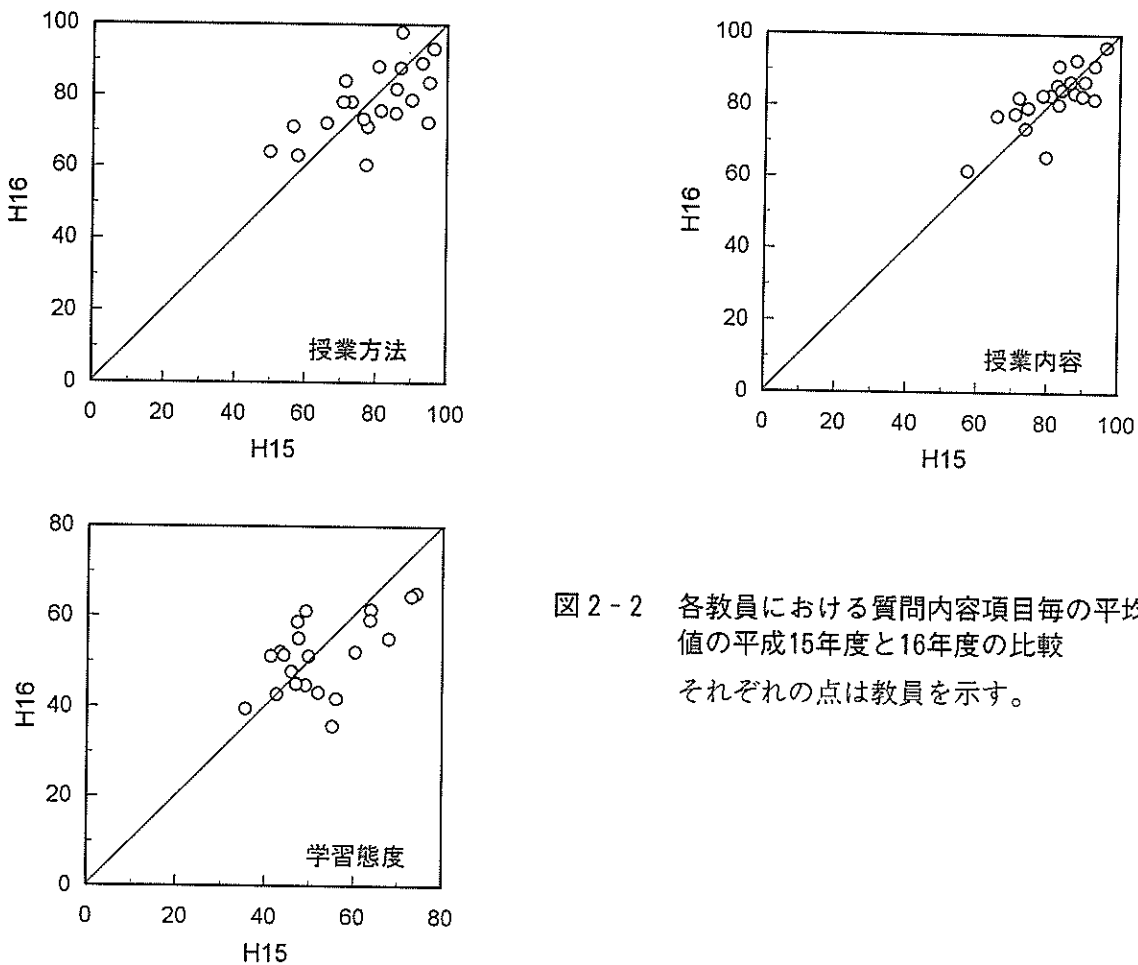


図 2 - 2 各教員における質問内容項目毎の平均値の平成 15 年度と 16 年度の比較
それぞれの点は教員を示す。

表 2-2 学生のコメント (生物環境科学科)

	評価された点		改善を指摘された点	
講義方法に関して	• 熱意が感じられた	4	• 板書が不十分, 見づらかった	9
	• 説明が丁寧でわかりやすかった	20	• 板書を消すのが速くノートが間に合わない	1
	• ポイントが明確だった	1	• ペースがやや遅い	1
	• 標本や実物を見ながらの説明がわかりやすかった。	16	• 講義のスピードが速い	4
	• 屋外での観察がためになった	4	• 資料を配布しないならノートをとる時間を考慮して進めて欲しい	10
	• 質問への対応が適切だった	32	• スライドの字が小さい	1
	• 小テストが効果的だった	3	• 要点をまとめて欲しい	1
	• 内容が整理されていた	2	• 話が急に飛んでわかりづらい	1
	• レポートや議論で意欲がわいた	6	• OHPを見やすくして欲しい	4
	• 刺激的な講義だった。	1	• レポートの回数が多すぎる	1
	• カラーの資料が見やすくてよい	8	• 小テストが多すぎる	1
	• ビデオ教材がためになった	3	• 時間をオーバーしないで欲しい	1
	• 配布資料が適切に準備されていた	5	• 話し方を工夫して欲しい (強弱, テンポなど)	3
	• レポート (2回)、試験 (2回) のタイミングが良い	1	• 説明が抽象的でわかりにくい	1
	• 写真がたくさんあって理解しやすい	1	• 声が聞き取りにくい	1
	• 板書が見やすい/わかりやすい	5	• 雑談が長すぎる	2
	• 毎回の授業の初めに前回の復習をまとめてもらったのが良かった。	4	• 中途半端にビデオ等を見せるのはやめて欲しい	1
			• 配布資料は図表以外にも説明をつけて欲しい	2
			• 配布資料の字が小さい	10
			• 配布資料に書きこみスペースがほしい	4
		• 配布資料に重複が多い	2	
		• 配布資料を後から配るのは困る	1	
		• 配布資料は論文からそのままではなく, ある程度内容をまとめて欲しい	1	
		• 小テストを採点してそのつど返却して欲しい	3	
講義内容に関して	• いろいろな動物の話が聞けてよかった。	1	• 内容が高度すぎた	4
	• 広範な知識が得られた	2	• シラバスどおりに進めてほしい	2
	• 自分の視点が広がった	2	• 量が多い	4
	• おもしろかった	20	• 他学科の国家試験対策は別講義にして欲しい	3
	• 興味をもてた	18	• 自然環境的な内容が薄すぎる	2
	• 同時期に実験を受けたら理解が進んだ	1	• プリントが多すぎる	2
			• テストが難しすぎる	1
			• もう少しトピックを増やして欲しい	3
			• トピックに関する参考書を示して欲しい	1
			• 教科書の中身をそのまま話しているだけなので, 知的好奇心がわからない	1
		• 関連する実験実習とちゃんとリンクした内容であるかどうか疑問	1	

	評価された点		改善を指摘された点	
学習態度に関して	<ul style="list-style-type: none"> 緊張感があって良い 遅刻に対する対応がよい 	1 1	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻に対して厳しすぎる 欠席，途中退出，遅刻に甘すぎる 	1 3
その他			<ul style="list-style-type: none"> 教室が狭い クーラーをつけて欲しい／ないのはおかしい／暑くて授業どころではない 台風休講の補講は，9-10時限の履修科目がある学生にも配慮して欲しい もっと厳しい形で先生の評価をさせて欲しい。そうすれば授業も改善されるだろう。 授業評価を実施しても，教員の方針は変わっていない。意味がないのでは？ 授業評価項目に「授業としての緊張感があるかどうか」を加えるべき 質問用紙の右側は不要 質問に「配布資料の見易さ」を加えて欲しい 休講が多すぎる 	1 11 1 1 1 1 1 1 1

(3) 地域農業システム学科

1) 対象教員

講義科目担当教員（教授，助教授）の18人（平成15年度は16人）を対象に集計した。演習，実験，実習科目を担当する助手は除いた。講義科目担当教員でも，演習科目講義のみ，アンケート調査の未実施の場合は除外した。学生による講義評価は質問事項の14項目について教員ごとに平均値で表した。

2) 教員ごとの講義科目数と受講学生数

学生による講義評価する講義科目数は，前・後期を通して54科目（前期24科目，後期30科目）について集計した。教員ごとに担当する講義科目数は異なり，多い教員では6科目，少ない教員では2科目と幅があった。教員一人当たりの平均科目数は3科目であった。講義科目ごとに受講学生数には差があり，多い科目では80名，少ない科目では11名であった。講義する複数科目を平均した場合の教員一人当たりの受講学生数は，多い教員で52名，少ない教員で12名であった。本学科における教員一人当たりの受講学生数は平均35名であった。

3) 集計結果および分析

集計結果を表3-1と図3-1，図3-2に示す。図3-2には，平成15年度および平成16年度の2年分を示した。学生からのコメントは表3-2に示す。図3-2から全体を通した平均的には，平成16年度は15年度に比べて僅かながら改善が認められる。教員別に見ると，高い評価を受けた教員と低い評価を受けた教員の違いが見える。各質問において平均値よりも低い評価を受けた教員は，その対策と改善が必要である。

以下，質問ごとに分析を行う。質問と関係する学生のコメントは，その時に取り上げ記述する。

【講義方法に関する項目】

○質問1：「講義は聞き取りやすかったですか」

本質問に対する学生の評価は，学科平均で82%であった。教員別に見ると，最高98%，最低33%であった。80%以上を評価された教員が14人おり，学生には聞き取りやすい講義が行われていると言えるが，50%台およびそれ以下の評価を受けた教員が2人いた。特に評価の低かった教員への学生のコメントは，しゃべっていることがよくわからないとのことであった。

○質問2：「講義を進めるスピードは適切でしたか」

本質問に対する学生の評価は，学科平均で83%であった。教員別に見ると，最高99%，最低60%であった。80%以上を評価された教員が13人で，全体的にみても評価が高く，講義はスムーズに実施されていると言える。

○質問3：「講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか」

多くの教員が視聴覚機器を使用した講義を行っているが，本質問に対する学生の評価は学科平均

で74%であった。教員別に見ると、最高95%、最低41%であった。80%以上の評価をされた教員が8人いたが、50%台およびそれ以下の評価を受けた教員も4人いた。学生のコメントから、ビデオやプロジェクターを有効に併用することで理解を深めさせることが判る。学生の注文としては、黒板の文字が小さいまたは読みにくかったり、OHPのレジュメ資料を配布してほしいとのコメントがあるので、今後の改善が必要である。

講義方法に関する評価を総合的にみると、学科としての評価は80%であり、昨年度より4%上昇した。教員別に見ると、90%台の評価が1人いた反面、50%台およびそれ以下も2人いた。後者の教員には積極的な改善が求められる。学生のコメントを見ると、プリントの配布については評判が高かった。板書文字をはっきりと大きく書いて欲しいとの要望が多かった。

○質問4：「教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか」

本質問は集計結果からは除いたが、分析だけを記述しておく。本質問に対する学生の評価は、学科平均で52%であった。教員別に見ると、最高92%、最低18%であった。一人の教員が非常に高い数値となったが、6名の教員は40%以下であったことから、取り立てた注意をしなくてもいいくらいの落ち着いた状態での講義がなされていたと推察される。

【講義内容に関する項目】

○質問5：「配布したシラバスは講義の内容・進め方について解りやすく書いてありましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で76%であった。教員別に見ると、最高98%、最低49%であった。シラバスに対する評価は、他の質問と比較してやや低いので、評価の低かった教員は改善策を講じる必要がある。

○質問6：「この講義全体の目標はよく理解できましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で84%であった。教員別に見ると、最高97%、最低58%であった。70%以上の評価を受けた教員が17名あり、大半の科目について、学生には講義内容および目的が理解し受講できたと言えるが、残り1名の教員には改善が求められる。

○質問7：「この授業に興味をもてましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で84%であった。教員別に見ると、最高97%、最低62%であった。講義科目は選択科目がほとんどであるから、学生は興味を持てる科目を履修するので、このように高めの評価となったと思われる。

学生のコメントでは、講義を通して農業、林業、畜産などに興味をもてるようになったとあり、このような学生が増えることを期待したい。

○質問8：「毎回の授業のねらいはその都度明確にされていましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で85%であった。教員別に見ると、最高100%、最低39%であった。14人の教員が80%以上の評価を受けた。30%台の1人には、講義のねらいの明確化に対しての改善が要望される。

○質問9：「講義の授業内容はよく準備されたものと感じられましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で94%であった。教員別に見ると、最高100%、最低79%であった。多くの学生が、各教員の講義への準備を高く評価した。

○質問10：「授業での説明は理解しやすかったですか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で79%であった。教員別に見ると、最高96%、最低31%であった。80%以上と評価された教員が12人、50%台およびそれ以下として評価された教員が2人いた。学生のコメントは、理解しやすかったとする意見、板書と同時に説明をすることは理解しにくいとする意見があった。

○質問11：「授業の内容は難しく（難易度）感じましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で69%であった。教員別に見ると、最高92%、最低35%であった。80%以上と評価された教員が6人、50%以下に評価された教員も4人であった。特に、30%台の評価を受けた教員には、早急な改善策を講じる必要がある。

○質問12：「授業内容の量は、適切でしたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で74%であった。教員別に見ると、最高90%、最低50%であった。80%以上を評価された教員が8人、50%台として評価された教員は3人であった。講義内容の量については、特に大きな問題は認められないが、50%台の教員には改善が必要である。

講義内容に関する総合的評価を見ると、学科としての評価は80%であり、昨年度より4%上昇した。教員別に見ると、90%台の評価が3人、60%台およびそれ以下が2人であった。講義内容についての評価は良と言える。

学生のコメントを見ると、高校で物理を取ってないことから、講義を理解するのが難しかったとの思いや、内容が専門的であることを訴えているコメントがあり、このような学生は他にもいると思われるので、専門科目が理解できるようにフォロー（補習講義等）を再検討する必要がある。また、板書文字をはっきりと大きく書いて欲しいとの要望も多くあり、即刻に改善する必要がある。

【学生自身の学習態度に関する項目】

○質問13：「この授業に興味を持ち、自主的に調べたことはありますか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で33%であった。教員別に見ると、最高89%、最低11%であった。全体的に低い評価である。学習を促す方策とその指導が、本学科では必要である。

○質問14：「この講義について、予習しましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で58%であった。教員別に見ると、最高95%、最低40%であった。50%以下の評価をうけた教員は4人であった。

○質問15：「復習をしましたか」

本質問に対する学生の評価は、学科平均で75%であった。教員別に見ると、最高100%、最低60%

であった。50%以下の評価を受けた教員はいなかった。

質問14と15は連動した事項として両者を比較すると、同一教員では同じ傾向が見られた。自学自習への学習態度を促すには講義内容の工夫やレポートの指導、課題を与えるなどの措置が必要となる。これについては、学生からのコメントで、例題や演習問題を課すことで理解しやすくなるとの意見がいくつか見受けられた。もっともな意見と受け取れる。

学習態度に関する評価を総合的にみると、学科としての評価は55%で、昨年度と全く同等であった。学生が積極的に勉学に取り組んでいるとは言いがたい。教員別に見ると、90%台の評価が1人、50%以下が6人であった。前者の教員の科目では、学生の予習復習の関心度が高いと言える。後者については、もっと予習復習を促す指導が必要である。

【その他】

学生のコメントでは、昨年同様、前期でのエアコンの設置要望がいくつかあった。

【平成15年度と16年度の比較検討】

平成16年度は、平成15年度の集計方法を踏襲した取りまとめを行った。ここでは、2年間の比較検討を行った結果について述べる。平成16年度の学科平均は平成15年度の場合と比較して、講義方法で4%上昇、講義内容で4%上昇、学習態度は全く同等であり、2年間で特に大きな変化は見られなかった。また、教員別においても、平成15年度に評価の低かった教員は依然低い評価が継続している。平成15年度は初めて教員別に集計を行ったが、アルファベット表記による匿名性に配慮したため、評価の低かった教員には十分に内容が伝わらず、講義の改善が行われなかったようである。本学科での成功例として、レジュメ資料を配付した視聴覚機器の使用、講義と連動した問題演習の実施、丁寧に取りまとめた板書といったことが良好な授業評価結果として反映されている。

本学科においては、2年次後期の入門セミナー終了直後に学生の教育研究指導分野への配属を行っている。その際、学生は専門分野云々ではなく、1～2年次に開講される授業科目（共通教育科目も含めて）を担当する教員の中から分野を選ぶ傾向がある。特に、授業評価でポイントの高かった教員に対しては毎年希望者が集中しているため、本学科においては専門分野への帰属意識の希薄な学生に対する3年次以降の専門教育のあり方について更なる検討が必要である。特に、学習態度に関する評価の学科平均が平成16年度と平成15年度共に55%と低い現状を踏まえて、専門教育における自学自習を促す動機付けを如何に行うかの方策が必要であろう。

表 3 - 1 教員別の集計結果（地域農業システム学科）

質問番号	質問内容	担当教員														平均				
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N		O	P	Q	R
「この授業方法に関する項目」																				
質問 1	講義は聞き取りやすかった	94	33	51	90	90	81	97	87	81	88	78	90	86	92	81	76	91	98	82
質問 2	講義のスピードは適切だった	89	69	60	89	87	80	93	90	82	93	90	83	78	99	69	84	90	77	83
質問 3	視聴覚機器は適切であった	67	41	59	82	77	86	92	73	89	59	50	92	69	69	90	95	70	80	74
質問 4	私語などを注意していた	45	27	46	51	42	44	67	32	84	66	33	73	40	23	92	78	18	74	52
	平均 (1-3)	83	47	56	87	85	82	94	83	84	80	73	88	78	87	80	85	84	85	80
「講義の内容に関する項目」																				
質問 5	シラバスはわかりやすかった	59	60	49	98	78	68	86	73	68	77	69	95	76	79	76	69	89	91	76
質問 6	講義の目標は理解できた	82	70	58	95	88	76	92	89	85	91	75	87	82	92	87	75	97	94	84
質問 7	講義に興味を持てた	86	65	62	95	95	74	92	90	82	94	69	83	68	97	80	87	97	88	84
質問 8	ねらいは明確にされていた	81	66	39	100	96	95	96	78	86	80	83	96	89	85	90	78	90	95	85
質問 9	授業の内容は準備されていた	96	79	88	95	97	98	99	93	90	91	94	99	92	98	95	96	98	100	94
質問 10	説明は理解しやすかった	90	57	31	93	88	64	91	88	83	83	63	72	72	95	82	83	91	96	79
質問 11	難易度は適切であった	90	53	35	50	92	50	72	87	78	79	57	52	43	92	62	88	86	69	69
質問 12	内容の量は適切であった	89	66	66	54	87	75	82	84	80	86	68	76	73	90	53	70	86	50	74
	平均 (5-12)	84	65	53	85	90	75	89	85	81	85	72	82	74	91	78	81	92	85	80
「学生自身の学習態度に関する項目」																				
質問 13	自主的に調べたことがある	18	16	40	89	30	21	40	31	26	46	11	40	39	23	39	26	32	28	33
質問 14	予習した	40	56	59	95	44	57	68	64	55	66	47	58	59	47	60	65	53	52	58
質問 15	復習した	60	69	73	100	64	79	84	73	62	82	65	84	82	72	81	74	77	77	75
	平均 (13-15)	39	47	57	95	46	52	64	56	47	65	41	60	60	47	60	55	54	52	55

数値は左の評価結果に該当する割合 (%) を示す。

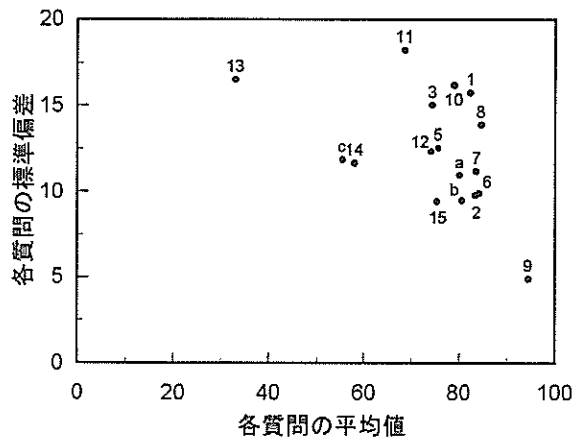


図 3 - 1 各質問ごとの全教員の平均値とその標準偏差の関係

図内の各数字は質問の番号を示し、aは質問1から3の、bは質問5から12の、cは質問13から15のそれぞれ平均値を示す。

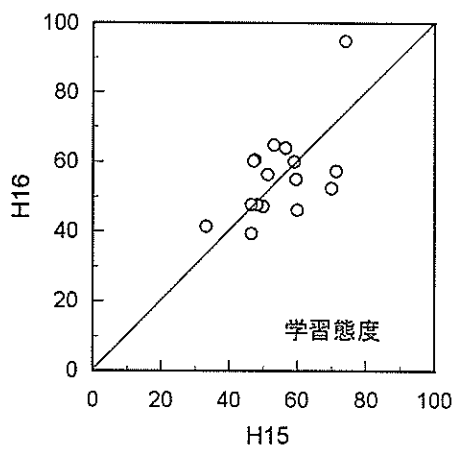
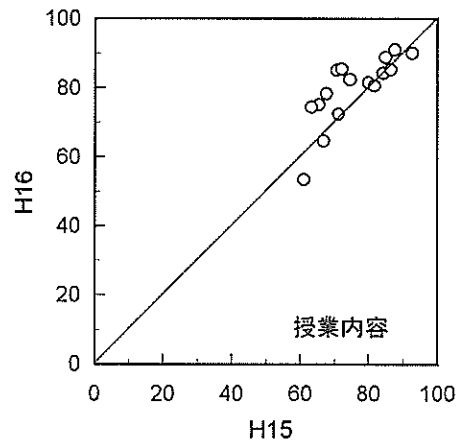
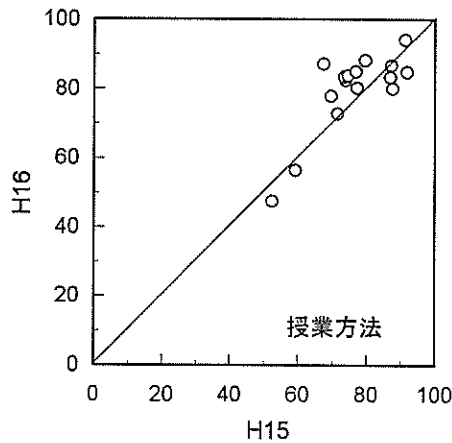


図 3 - 2 各教員における質問内容項目毎の平均値の平成15年度と16年度の比較
それぞれの点は教員を示す。

表3-2 学生のコメント（地域農業システム学科）

	評価された点		改善を指摘された点	
講義方法に関して	• 字も見やすいし、すごく分かりやすかったと思う。	3	• 黒板の字が小さすぎるので、もっと大きく書いてほしいです。	16
	• 授業のスピードがちょうどいい。	2	• パワーポイントを書き写すのに大変で、	
	• 高校とは違い、ただ解ければいいじゃなくて、ゆっくり丁寧に教えていた。	2	• 教員の話が多少頭に入らないということもありました。	
	• 板書もまとめられていて、説明も丁寧なので大変よいと思います。	4	• OHPで表示していたことをレジュメとして配布したらどうか。	
	• 今の状態で授業を進めていいと思う。		• 声が小声で、しゃべっていることがよくわからない。理解しにくい。	2
	• 授業に関連した映像やビデオなどが取り入れられていたので分かりやすかったです。	2	• プリントをもっと配布してほしい。	
	• プリント、説明がわかりやすかった。	4	• ディスカッションを立論と質疑と役割を分けずに、賛成側と反対側に分けてした方が学生としてはやりやすいと思います。	
	• 先生のしゃべり方（ペース、声の大きさ）がよかった。		• 少しテキストが難しかった。	
	• パワーポイントを用いたことでスムーズに授業は進みました。		• 板書が少ない。	
	• 講義の内容の中に具体的な例を教えてくださいとて聞き取りやすかった。		• プリントがたくさん配られたが、どこが重要なのかあまり良くわからないものもあった。	
	• ディベートはよかったと思います。これからも続けてやっていって下さい。	2	• 板書の字がきたなくて、読みにくかった。	5
	• 1問1問、丁寧に教えてくれるのがよかったし、納得するまで教えてくれてよかった。		• 映像の音が小さくて、どうしても聞きとりづらかった。	
	• メモ用紙が配られて授業するのが良かった。		• ごく簡単な小課題を時々授業中などで行わせていけば、学生の理解度は今より上がるのかなと思った。	
	• 毎回プリントが配られて、教科書を簡潔化してあり理解しやすかった。	2	• もう少し細かく解説をお願いします。	
	• OHPが見やすくよかった。		• 先生の口調がゆっくりしていて、眠くなってしまった。	
	• レポート課題は大変であるが、やっていくうちに意味が分かるようになって、この講義に対して興味が持ててよかった。		• マイクを使ってほしかったです。	2
	• プリントを配ってOHPを使うと、ノートをとる量が減るので、前を見て話しを聞くことができるのでやりやすい。	2	• 授業の開始が遅れていた、OHPの準備とかで。	
	• 分からないところを丁寧に教えてもらったので勉強になりました。		• 資料が少し多かった様に思います。	
	• 機械の実物をもって来て見せていたのでわかりやすかった。		• 講義の最初での前回の復習が長すぎるのではないか。	
	• テストまでスムーズに進んだ気がする。		• やる内容をプリントに刷って配ってほしかった。	
• 自分たちで調べてまとめたものがテキストなので、わかりやすく、興味深かった。		• 黒板に書いて説明した方が分かりやすかったです。		
• わからない所は丁寧に教えてくれたので、すごくうれしかった。そして楽しかった。		• プログラムのやり方を全部（またはある程度）してから作業したけど、覚えきれないので出来れば同時進行がいい。	2	
		• テキストとかも配布されてるし、特にパソコン室でやる必要はないかなと思いました。		

	評価された点	改善を指摘された点
講義方法に関して	<ul style="list-style-type: none"> • スライドやプリントは読みやすく、また分かりやすかったです。 • 板書が良かったり悪かったりでした。プリントの説明より板書が良かった。 • 授業の進行がスムーズであった。 • 声が大きくて聞き取りやすかった。 • 全体の流れを紹介して授業を進めて下さったので理解しやすかった。 • スライド、プリント、黒板などを使って丁寧に説明をしてくださいました。 • ビデオを見るのがよかった。講義の中で分かりにくかったことも、ビデオを見て分かるケースも多かった。 • 先生が授業全体の流れを説明してくれたおかげで理解しやすかった。 	<ul style="list-style-type: none"> • プリントの字が小さすぎてつぶれていた。改善を求めます。 • 板書がくずした字が多かったので少し分かりづらかった。 • 教科書がわかりにくかった。 • 電気を消して、黒板に字を書くのは止めてほしい。 • プリントは英文を訳したものを渡してほしい。 • 板書がわかりにくく感じました。 • 板書ばかりではなくて、ビデオなどの資料をもっと増やしてもらいたい。 • ロボラボの時間が短かった。 • 質問への返答が適当（悪い意味の方）であった。 • OHP機で画面が見れなかった。 • プリントに書いてあることを黒板にそのまま書くのは2度手間だと思います。プリントに書いてないことだけ板書すればいいと思います。 • 板書が読みにくかった。もっと大きく書くか丁寧に書いた方がよいと思う。 • 板書の量の多さ、何とかありませんか。
		<p>3</p> <p>2</p> <p>2</p> <p>2</p>
講義内容に関して	<ul style="list-style-type: none"> • 授業の説明で例を出してもらえたので分かりやすかった。 • 教科書に比べて、配られたプリントの方が分かりやすくて良かった。 • 練習問題をやることで理解でき電卓を使って計算するのが楽しかった。 • 統計学の基本中の基本を知ることができて、何かのきっかけになればよいと思う。 • 講義ごとにテーマがはっきりしていて、又それに関する新聞記事などがあって良かった。 • わかりやすくて、授業らしい授業として適切なものだったと思う。 • 毎回の授業内容が OHPでわかりやすくまとめてあり、補足説明も十分にしていた。 • 毎回いろいろな写真などみれたのはよかった。 • 林業というものを深く考えることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> • もっとテストの内容をわかりやすく説明してほしい。 • 講義ノートが教科書と同じだったので、せっかくだから違う参考書等からも引用してほしい。 • 難しかった。 • 講義の内容が、ちょっと外れすぎる事もあった。 • 板書がグラフだけで要点がわかりづらい。 • 専門的で、理解するのに難しい。 • 重要ポイントがよくわからない。 • 図書館で参考書や演習を借りてこないと解けない問題もあった。 • 熱エネルギーが難しかった。 • 授業にメリハリがなかったと思います。 • テキスト量が多すぎます。あと、式などの訂正はハッキリして下さい。 • 話してる内容が聞きづらい部分があった。 • 実際に造られた構造物の写真などがもっと見たかった。
	<p>4</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>2</p>	<p>2</p> <p>2</p> <p>3</p>

	評価された点		改善を指摘された点	
講義内容に関して	<ul style="list-style-type: none"> • 日本以外の地域の農業・水管理の方法はとても興味深いものでした。 		<ul style="list-style-type: none"> • もっと例題を授業でやってほしいと思った。 	
	<ul style="list-style-type: none"> • OHPやビデオなどが多くて、目で理解することができた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> • どこがポイントなのかわかりずらく、淡々と進行する講義なので興味をもてない。 	2
	<ul style="list-style-type: none"> • 授業の内容は毎回おもしろく、興味をもてた。 		<ul style="list-style-type: none"> • シラバスに参考文献等を書いてほしいです。 	
	<ul style="list-style-type: none"> • ちゃんと準備されていて、おもしろい話が多くて楽しかったです。 	2	<ul style="list-style-type: none"> • ペースはよかったけど難しかった。 	2
	<ul style="list-style-type: none"> • とても興味があったので、いろいろな例を資料にしてわかりやすかった。 	2	<ul style="list-style-type: none"> • 今まで物理をしたことがなかったので難しく感じる場所もありました。 	2
	<ul style="list-style-type: none"> • 内容は初めてのものでややこしかったけど、例題を出して演習をしてくれたのでよく理解できました。 		<ul style="list-style-type: none"> • 授業の方向性をもう少しはっきりしてほしいかった。 	
	<ul style="list-style-type: none"> • 圃場整備は実際どんなことをやるのか知ることができてよかった。 		<ul style="list-style-type: none"> • いろいろありすぎてどれが重要なのかいまいちつかめなかった。 	
	<ul style="list-style-type: none"> • 講義と連動して演習があったので理解しやすかった。 	2	<ul style="list-style-type: none"> • 経済系の授業は、途中でももう少し練習問題をしてけると理解しやすいです。 	
	<ul style="list-style-type: none"> • 問題の量、難しさともに良かったと思います。 	2	<ul style="list-style-type: none"> • 難しいの一言。 	
	<ul style="list-style-type: none"> • 前期でやったことは少し忘れかけていたので、いい復習になったと思います。 			
	<ul style="list-style-type: none"> • 製図に興味を持つことができた。 			
	<ul style="list-style-type: none"> • 農村の環境整備のことに関するいろいろな例を挙げて説明してくれたので理解しやすかった。 	3		
	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の日本の都市と農村の関係を知ることができ、参考になった。 	2		
	<ul style="list-style-type: none"> • 身近なことであるのに、よく知らなかったことについての授業だったので、とても勉強になりました。 			
	<ul style="list-style-type: none"> • 資料の内容よりもっと詳しく講義されていたので非常に興味がわきました。 			
	<ul style="list-style-type: none"> • 色々な社会問題にも目を向けられて楽しかったです。 			
	<ul style="list-style-type: none"> • 余計なことはしなかったこと。 			
	<ul style="list-style-type: none"> • 先生の説明は丁寧で難しいところも分かりやすかった。 	2		
	<ul style="list-style-type: none"> • 良かった。 			
	<ul style="list-style-type: none"> • 近年の畜産の問題点を学ぶのに適した授業だった。 			
<ul style="list-style-type: none"> • 4学科の学生が受講しているので、幅広く教えていけないといけないという先生の考慮に感心しました。 				

	評価された点	改善を指摘された点	
学習態度に関して	<ul style="list-style-type: none"> • ディベートは楽しかったです。他の授業にはない楽しさがありました。 • ディベートをした事によって自主的に多くのことを学習することができたのが良かったです。 • 世界の灌漑を勉強できたことが自分自身とても勉強になりました。 • 1年の時にやった土壌の知識が結構役に立ったと思う。 • 実際に演習問題を自分達で解いたので自分のプラスになります。 • 人前で発表する難しさを知ることができました。 • とてもこれからためになる講義だったので、受けて良かったです。 • パッと見ただけなら難しそうな公式も、基本的な内容を理解していればわかるもんだと改めて思いました。 • 毎回出席表での先生とのコミュニケーションがとれたのは良かった。 • 先生が授業の内容を情熱を持って語ってくれているのでやる気がでた。 • 落ちついて授業ができた。 • 授業内容にも興味を持てるようになりました。 	<ul style="list-style-type: none"> • ディベートでもう少し意見のやり合いができれば良かったと思います。 • ディスカッションを判定する人たちは自分はどう思うかという意見はなしに、聞いたままを判定すべきだと思います。 • ビデオがもっと見たかった。 • 先生は一生懸命説明して下さいましたが、少し難しかったです。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 先生のHPが良い。 • 先生の人柄がよかった。 • わかりやすく教えようという気持ちが伝わってくる講義でした。 • 先生が非常に楽しくて、学生にも人気だから良い。 • パソコン室だとスクリーンが見やすかった。 • 将来に対する話などをしてもらい、講義とは違って勉強になりました。 • 途中でクーラー付きの部屋になったので能率が上がりました。 • 先生が講義中でいろいろと語ってくれた様々な体験談は勉強になった。人としての生き方を学んだような気がします。 	<ul style="list-style-type: none"> • L206はあまりにもエアコンが効き過ぎていて、寒い中での授業だった。 • 暖房をもう少し早くつけてほしかったです。 • 担当教員の遅刻が目立った。 • 教室でやるとスクリーンに写されているのが見にくかった。 • 教室の環境（クーラー）を改善してほしい。 • 教員御自身の都合やその日の機嫌で講義の様子や雰囲気が変わることには少々戸惑いを感じました。 • 教室が寒かったので、暖房を調整してほしい。 	<p>3</p> <p>2</p> <p>2</p>

(4) 応用生物科学科

1) 対象教員

応用生物科学科教員のうち、平成16年度の講義科目担当教員（教授、助教授、講師）17人を対象に集計した。本報告書では、各教員をAからQで表記した。演習、実験、実習科目、複数の教員により担当される科目は除外した。「学生による授業評価」結果は、15項目の質問中14項目の質問（質問4の「教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合注意していましたか。」は集計から除外）について教員ごとに担当科目について最も評価の高い回答（「適切であった」など）の平均値(%)で表した。

2) 教員ごとの講義科目数と受講学生数

「学生による講義評価」を実施した講義科目（学部共通科目3科目を含む）の中で、前・後期を通して33科目（前期15科目、後期18科目）を対象として集計した。教員1名で担当する講義科目数については、多い教員では3科目、少ない教員では1科目であった。

講義科目ごとに受講学生数には差があり、多い科目では100名～150名、少ない科目では22～30名であった。講義する複数科目を平均した場合の教員一人当たりの受講学生数は、多い教員で104名、少ない教員で25名であった。本学科における教員一人当たりの受講学生数は平均64名であった。以上、講義科目数と受講学生数に関する状況は、平成15年度とほぼ同様であった。

3) 集計結果および分析

平成16年度の集計結果を表4-1に示す。図4-1には、平成15年度および16年度の両方の調査集計を行った教員（15名）について、各質問項目1-15の平均値（a, 授業方法の平均値；b, 授業内容の平均値；c, 学習態度の平均値）と標準偏差、図4-2には授業方法、授業内容、学習態度の大項目で集計された平成15年度および平成16年度の平均スコアを示す。学生からのコメントを表4-2に示す。各教員において平均値よりも低い評価を受けた項目については、次年度へ向けた対策と改善が必要である。以下、質問ごとに集計結果をもとに考察を行う。質問に関連する学生からのコメントは、その時に取り上げ記述した。

【講義方法に関する項目】

○質問1：「講義は聞き取りやすかったですか」

本質問に対する学科教員の平均では、76%の学生は「聞き取りやすかった」と評価し、前年度の71%とほぼ同程度であった。80%以上の評価を受けた教員は10名であった。教員によっては、「早口で聞き取りにくい」との学生のコメントもあり工夫が必要である。

○質問2：「講義を進めるスピードは適切でしたか」

学科教員の平均は、前年度の80%と同様に高く82%の学生が講義を進めるスピードは適切であったと答えており、満足すべき数値と考えられた。

○質問3：「講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか」

本学科では、板書を主体とした講義、液晶プロジェクターを用いた講義がなされている。併せて講義資料が配付されている。学科教員の平均では、79%（15年度は76%）の学生は「適切であった」と回答している。板書では「分かりやすく書いて欲しい」とコメントがあった。また、教員に対し分かりやすく重要なポイントを示す講義資料を望むコメントもあった。

○質問4：「教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか」

59%（前年度55%）の学生は「注意していた」と回答している。教員に対し「私語を注意して欲しい」との学生からのコメントも多くあり、状況に応じた対応が望まれる。15年度の授業評価で「静かな講義では教員は注意する必要もなく、この質問はあてはまらない。」とのコメントが寄せられたので、16年度後期から質問用紙の選択肢に3：「そのような私語などはなかった」の項目を付け加えた。

講義方法に関する評価を総合的にみると、学科教員の平均（質問1～3）としては79%（前年度76%）が「講義は聞き取りやすく、スピードが適切で、視聴覚機器の使用は適切であった」と回答した。教員別に見ると、90%台の評価が3人いた反面、50%台も2名いた。学生のコメントを見るとプリントの配布が理解を助けるのに効果的であることが分かる。パワーポイントを使用する講義では、併せてそれに対応したプリントを配布することが必要である（学生のコメント参照）。

【講義内容に関する項目】

○質問5：「配布したシラバスは、講義の内容・進め方について分かりやすく書いてありましたか」

応用生物科学科では、農学部から配布される専門科目シラバスとは別に、各教員は講義の学習・教育目標と14回の内容を詳細に記述したシラバスを1回目の講義で学生に配布し、講義計画の説明を行っている。そのため、84%（前年度80%）の学生はシラバスが「分かりやすい」と感じている。

○質問6：「この講義全体の目標はよく理解できましたか」

学科教員の平均では、89%（前年度87%）の学生は「理解できた」と回答し、全ての教員が70%以上の数値を示し、満足すべき結果と考えられる。これも上述のシラバスの説明に拠るところが大きいと思われる。

○質問7：「この授業に興味をもてましたか」

学科教員の平均では、85%（前年度86%）の学生が興味を持って講義を受けている。これも概ね満足すべき数値と考えられる。

○質問8：「毎回の授業のねらいはその都度明確にされていましたか」

学科教員の平均では、88%（前年度87%）の学生は「講義のねらいは明確にされた」と回答している。毎回または単元毎に講義内容の「概要」を予め説明し、「講義」を行い、最後に「まとめ」を行うことが望ましい。

○質問9：「毎回の授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか」

学科教員の平均では、学生のほとんど（93%）（前年度94%）が「よく準備されていた」と感じている。全ての学生が「よく準備されていた」と高く評価した教員も2名いた。

○質問10：「授業での説明は理解しやすかったですか」

学科教員の平均では、81%（前年度77%）の学生が理解しやすかったと感じており、前年度の77%よりも若干上昇した。学生から「講義内容がむずかしい」とのコメントもあった。評価がやや低い講義では、学生の学力に考慮して、講義方法と内容の工夫が望まれる。

○質問11：「授業の内容は難しく（難易度）感じましたか」

学科教員の平均では、適切と回答した学生は72%（前年度72%）であった。上述と同様な配慮が望まれる。一方で、質問10に関連して講義内容の理解度を上げるために、講義内容の難易度を低くする事は疑問が残るところである。

○質問12：「授業内容の量は、適切でしたか」

本質問に対し適切と回答した学生は、学科教員の平均では73%（前年度72%）であった。基礎的な科目を担当する教員の場合、教えるべき内容が多くなる傾向にあるのは、やむをえない面もあるようである。その分、学生の頑張りを期待したい。

講義内容に関する評価を総合的にみると、学科としての評価の平均値は83%（前年度82%）である。教員別に見ると、90%台の評価が3人、70%以下はなく、全教員による講義内容についての評価は概ね良好と言える。当学科は化学関連の講義が多くを占めるため、高校での化学未履修の学生は、講義の理解度が低いものと推察される。専門科目が理解できるよう補習講義等について検討する必要がある。

【学生自身の学習態度に関する項目】

○質問13：「この授業に興味をもち、自主的に調べたことはありますか」

学科の平均値は、33%（前年度35%）の学生自主的に調べたことがあると回答し、前年度と同様に全般的に低い結果となった。教員によっては62%と高い数値を示した。

○質問14：「この授業について、予習しましたか」

学科の平均値は59%（前年度66%）と半数以上の学生が予習している結果を示した。教員によっては、教科書で予め示した範囲について、次回の講義前に小テストを実施した教員については、96%と極めて高い割合を示している。学生のコメントにもあるように予習テストは良い教育効果をもたらしているようである。

○質問15：「復習しましたか」

「復習した」が平均75%（前年度81%）であり、教員により56%から92%と大きな違いが認められる。学生の自主性にまかせるのではなく、予習・復習をするよう教員による指導の必要性が感じられる。

質問14と15は連動した事項であり、両者を比較すると、同一教員では同じ傾向が見られた。自学自習を促すには、講義内容の工夫や小テスト、課題を与えるなどの措置が必要となる。

学習態度に関する評価を総合的にみると、学科としての平均値は56%（前年度61%）であり、半数以上の学生が積極的に勉学に取り組んでいることがうかがえる。コメントからわかるように予習復習の必要性を認識している学生もいるようであるが、全般的に、もっと予習復習を促す指導が必要である。教員別に見ると、70%台の評価を受けた教員が3人であったが、科目の授業内容も要因としてある程度考えられる。

【施設その他】

平成16年度初めに、大部分の教室にクーラー整備された。寒すぎるとコメントする学生もいるのできめ細かい配慮が望まれる。「人数に対して講義室が狭い」とコメントした学生がおり、適切な大きさの講義室について考慮する必要が感じられる。

【平成15年度と平成16年度の比較検討】

授業方法の評価については、教員間のバラツキ（図4-1，標準偏差a）が大きく、16年度は教員により若干の上昇と減少があるがほぼ同様の傾向が認められた。授業内容については、両年度でほとんどの教員が高い評価を得ており、来年度もこの水準が維持されることを期待する。学習態度については、年度間で比較すると一部の教員で上昇や減少が見られるものの、約50%に集中する傾向が見られる。

表 4-1 教員別の集計結果（応用生物科学科）

質問番号	質問内容	担当教員														平均			
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	M		O	P	Q
「この授業方法に関する項目」																			
質問 1	講義は聞き取りやすかった	70	95	91	92	87	60	72	41	93	39	93	47	45	85	92	94	100	76
質問 2	講義のスピードは適切だった	86	88	87	74	80	94	84	84	73	85	96	81	44	69	84	89	89	82
質問 3	視聴覚機器は適切であった	49	91	90	89	94	85	59	68	89	78	90	46	85	71	74	89	96	79
質問 4	私語などを注意していた	92	71	28	85	57	96	55	53	72	77	56	35	68	22	53	57	24	59
平均 (1-3)		68	91	89	85	87	80	72	64	85	67	93	58	58	75	83	91	95	79
「講義の内容に関する項目」																			
質問 5	シラバスはわかりやすかった	82	94	89	85	85	88	85	67	88	74	92	68	89	85	84	86	89	84
質問 6	講義の目標は理解できた	82	96	92	95	91	88	94	88	94	77	96	79	90	92	84	78	100	89
質問 7	講義に興味を持てた	72	90	74	92	94	85	85	88	93	68	94	72	94	92	80	81	97	85
質問 8	ねらいは明確にされていた	75	97	97	97	97	83	85	86	87	81	97	62	92	85	90	95	94	88
質問 9	授業の内容は準備されていた	88	98	100	100	99	94	88	79	96	95	99	81	94	94	95	97	97	94
質問10	説明は理解しやすかった	55	90	77	91	91	83	75	78	85	82	94	63	69	86	76	76	100	81
質問11	難易度は適切であった	52	81	66	72	56	77	81	80	68	66	94	76	51	83	68	54	91	72
質問12	内容の量は適切であった	75	73	66	64	70	75	89	74	67	95	84	88	55	60	68	49	93	73
平均 (5-12)		73	90	83	87	85	84	85	80	85	80	94	74	79	85	81	77	95	83
「学生自身の学習態度に関する項目」																			
質問13	自主的に調べたことがある	30	30	22	30	53	17	32	38	39	52	32	31	62	17	27	22	30	33
質問14	予習した	58	67	41	56	74	67	43	96	70	48	57	58	79	47	66	43	40	59
質問15	復習した	78	74	60	79	93	71	56	89	89	65	73	71	93	60	92	68	60	75
平均 (13-15)		55	57	41	55	73	52	44	74	66	55	54	53	78	41	62	44	43	56

数値は左の評価結果に該当する割合 (%) を示す。

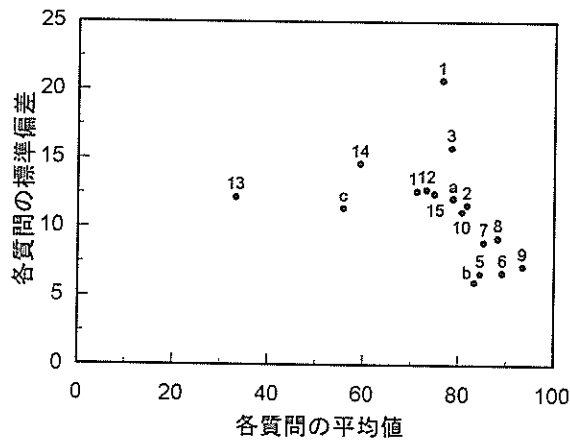


図 4 - 1 各質問ごとの全教員の平均値とその標準偏差の関係

図内の各数字は質問の番号を示し，aは質問1から3の，bは質問5から12の，cは質問13から15のそれぞれ平均値を示す。

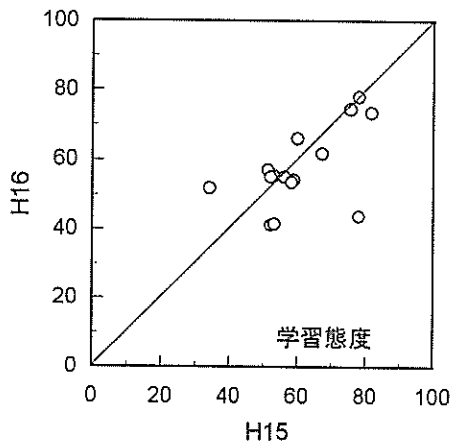
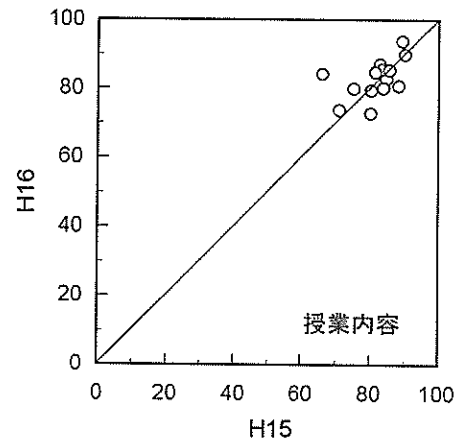
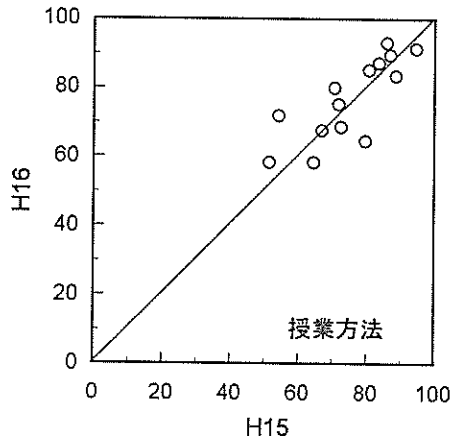


図 4 - 2 各教員における質問内容項目毎の平均値の平成15年度と16年度の比較
それぞれの点は教員を示す。

表 4-2 学生のコメント (応用生物科学科)

	評価された点		改善を指摘された点	
講 義 方 法 に 関 し て	• 丁寧な説明で分かりやすかった	18	• 語尾の声小さかったり、早口で話が	11
	• 説明が聞きとりやすかった	3	聞きとり難いことがあった	
	• 板書の字も丁寧でわかりやすい	2	• 言葉に抑揚をつけてほしい	2
	• 黒板の字が大きくて見やすい	2	• 重要なポイントを明確にして欲しい	12
	• 板書やプリントが分かり易いで、ノート の整理がしやすい		• 理解し難いまま先に進んでいく	2
	• 板書や説明の仕方がとてもうまい		• 説明がよくわからなかった	6
	• プリントやOHPが見やすいのが良かった	3	• 専門用語が多すぎ、もっと分かりやす い言葉で説明して欲しい	6
	• 毎回、前回の授業の質問に答えてくれ て分かり易かった	2	• 板書の順番がばらばらなので、揃えて 欲しい	2
	• 今まで〇〇〇について学ぶことはほと んど無かったが理解しやすい説明だっ た		• 板書が読みづらかった	15
	• 授業の最後に、ポイントのまとめがあ り、分かりやすかった	12	• 板書を消すのが早すぎるものがあっ たので改善して欲しい	2
	• 最初は量が多いと思ったけど〇〇につ いて分かってよかった		• 板書の間違いに気付いて欲しい	2
	• 毎回、授業のときに〇〇を持ってきて もらえてよかった	19	• 板書を「仕方ない」といって改善しな いのはよくない	
	• 私語をしている人を注意してくれたの でとても助かった		• 板書を途中で止めずにきちんと書き終 わって欲しい	
	• とても分かり易く、楽しい授業をして くれてよかった	5	• 板書が多すぎて先生の話が聞けない	6
	• 内容は難しかったが説明が分かりやす かったので理解しやすかった	2	• 板書してからすぐ説明するのではなく、 写す時間をとって欲しい	19
	• OHPを上手く使っていて、とてもよ かった	3	• 説明の時、もう少し板書をしてくれ たらもっと理解しやすい	
	• 毎回の小テストでおのずと勉強する習 慣がついてよかった	8	• なるべく板書の少ない講義がよい	
	• 中間テストがあって良かった		• ノートに説明を書けるよう、板書又は ゆっくり説明して欲しい	
	• テストと日程をずらしてもらえたこと が嬉しかった		• 教壇においてあるプロジェクターが邪 魔で黒板の文字が見えなかった	3
	• 食生の一年だがよく理解できた		• OHPを見るときは、前の電気を消し て欲しい	
• ノートの授業は分かり易くて良い		• 席によっては見づらいのでOHPを中 央に寄せて欲しい		
• ノートが復習の役に立ちました		• OHPの量が多くて、書き写している 間に先生が話され、あまり話の内容を 聞けなかった	7	
• プリントやプロジェクターを使っ ての説明が分かりやすかった		• 暗くてノートを取りづらかった	2	
• プリントを使った方が説明を聞く余裕 ができて良かったです		• もう少し簡単な資料でも良い		
• 教科書に沿った授業で、勉強しやすか った		• プリント(資料)に見難いところが多 々あった	9	
• 教科書も分かりやすかった		• パワーポイントの内容をもう少しプ リントして欲しい	15	
• 先生は親身になって教えてくださり、 とても満足できました		• プリントが少ないので書く量が増え、 講義を聞けなかった		
• 先生が熱心なところがよかった	2	• 小テストの解説をして欲しい		
• 自ら考える授業でよかった	2	• テストが難しい		
		• テストを早く返却して欲しかった	2	
		• 範囲が広すぎるので中間試験をして欲 しい	4	
		• テストの解答時間をあと 2, 3 分延ば して欲しかった		
		• 小テストの成績のウェイトが 50%と いうのは大きすぎる		
		• 〇〇を書くテストの解答欄が小さ すぎる		

	評価された点		改善を指摘された点	
講 義 方 法 に 関 し て	<ul style="list-style-type: none"> • 毎回、講義のはじめに前回の講義のまとめをしてくれていたのが、復習となり、とても良かった • 教科書の詳しすぎる部分からキーワードをつかむ講義だったのでとても良かった • 例題や練習問題は理解に役立った • プロジェクターによる〇〇〇の紹介は良かった • 私語をしている人はほとんどいなかった • 物質の名前を一つ一つ丁寧に説明してもらえたのが、助かりました • 毎回の授業が、とても準備されていた • 〇〇に色ぬりしたものが少し大変でしたが、勉強になった • プリントが分かりやすく書いてあるので良かった • 授業内容が書かれたプリントを配布してもらって良かった • プリントに図や写真を入れるのは分かり易い • カラーのプリントは見やすい • 配布プリントに教科書 p.〇と書いてくれていて教科書と照らし合わせて勉強できるようにされていたので良かった 	12	<ul style="list-style-type: none"> • 図だけでは理解しづらいので、説明を板書またはプリントにして欲しい • 先生の絵ではどんな器具なのかよくわからなかった • プリントにページを打って欲しい • プリントにタイトルを付けて欲しい • 30ページ以上に及ぶプリントを配られても、どのプリントをどの講義の時に見れば良いのか分からない 	3
		3	<ul style="list-style-type: none"> • プリントを単元毎にまとめて欲しい • プリントにはもう少し解説文を載せてわかりやすくして欲しい • プリントに小さな記述ミスや誤字があり、誤解につながるので注意して欲しい 	8
		2	<ul style="list-style-type: none"> • プリントの見方が縦や横だったりして見にくく、一定にして欲しい 	2
		2	<ul style="list-style-type: none"> • プリントとして配布されていない部分はかなり大変でした 	
		2	<ul style="list-style-type: none"> • 配布のプリントとスライドの内容が異なっていて戸惑った 	
		7	<ul style="list-style-type: none"> • 授業内容とプリントの要点がずれている時があった 	
		2	<ul style="list-style-type: none"> • マーカーすると字がにじむので、プリントのインクを変えて欲しい • 配られたプリントのどこが基礎でどこが応用なのかよく分からなかった • 講義が教科書の復唱のように感じた • 教科書をどこまで進んだか分からないことが多々あった • テスト前とテスト期間中のレポートはつらい • 時間を守って欲しい 	
			<ul style="list-style-type: none"> • 講義終了間近でいつも、進行が速くなり、バタバタした 	6
			<ul style="list-style-type: none"> • 授業のペースが一定でなく、最初ゆっくりすぎて授業の終わりに急ぎあしで説明され、よく分からない所が多々あり、前半、後半をうまく分けて欲しい • 授業中に「テストに出す」と言った所があまり出ていない • 休んだ人の為に、休んで受けとれなかった答案や前回の資料を配って欲しい • テスト勉強しにくいので、毎日の講義でのまとめをして欲しい • 「〇〇〇が△△△になる」という表現を「～が分解される時つくられる」とかにして欲しい • 生徒に質問する時間があるならもっと内容の濃い授業をして下さい • もらった資料の量と、講義のスピードが伴っていなかった • 講義ごとに要点をまとめたプリントなどを配布して欲しい • テスト範囲を明確にして欲しい 	6
				12

	評価された点	改善を指摘された点		
講義方法に関して		<ul style="list-style-type: none"> 試験問題を事前に公表して欲しい 試験範囲のところはプリントを配布して欲しい 宿題の頻度を増やして欲しい 授業中の私語を注意して欲しい 寝ている人を注意して欲しい 教科書を購入する意味が分からない 教科書を指定し、それに沿って勉強しテストをすれば良い 		
		12		
		2		
講義内容に関して	<ul style="list-style-type: none"> 興味を持てる授業内容でした いろいろな雑談は面白かった 興味のある分野であったので非常に勉強になった とても重要な講義であることがわかり、受講してよかった 前の時間の授業科目で説明されなかった事が丁寧に説明された 実験で行ったことの詳しい説明が聞けてよかった 研究室での専門と関連しており、大変勉強になった 全教科中で一番勉強していると感心した授業でした 生物を習っていなかったのが難しかったが、面白かった 面白かったが、テストが大変だった 内容が詳しくて良かった ○○○には興味なかったが、代謝など自分の好きな分野から導入されて○○○も面白いと感じた 教科書が面白いと思いました 日常生活で参考になることや役立つことが沢山あり、興味をもてた 最先端の話が聞けて楽しかった ○○学との連携が感じられて、いい勉強になりました 研究開発、商品開発の話が良かった 今まで○○○について、何も知らなかったもので、講義は面白かった 少し説明が理解できない所もあったが、問題を解くのは楽しかった 解糖系や TCA 回路は、高校の授業や他の講義でも少し触れ、今回の講義で詳細な点まで学べた 体の中で何が起きているのか少し分かったのが良かった 初めの方は難しかったが、農業利用などの方は分かり易かった 講義内容の量は適切だと思う 	<ul style="list-style-type: none"> 22 3 2 2 2 2 2 2 26 3 3 4 2 4 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の内容において、いきなり話を換えられると困る 前半は理解できたが、後半は難しかった よく理解できなかった部分があった 内容が難しかった もう少し難しくても良いと思った 覚えることが多すぎて、もう少し講義内容を少なくして欲しい 学生実験の事を考えるとこの授業が前期であれば良い 基礎的な事項に力をいれて欲しい 学名のテストがわからなかった もっと○○○の計算もしたかった 計算問題を詳しく解説して欲しい ○○○○はとても面白い分野なので、もっと授業をして欲しかった 「○○○○」の説明を数回の講義にわたって何度も聞いたが時間のロスではないか 有効数字が最後まで曖昧でとても困りました 講義の名前を「○○○○」にした方がより良い 大学に入ってから学ぶ○○○についての定義を講義の始まりに板書かプリントで分かり易く教えて欲しい 企業のウラ話など面白かったが、授業から度々それていた シンポジウムのレポート提出についてはシラバスにない シンポジウムのレポートが出席がわりになるということが疑問に思った 教科書が分かりづらく、先生の説明がなければ、分からないことも度々あり予習しづらかった 内容が応用生物科学科向きで食料生産科学科の授業に感じなかった この授業は、先生が今回初めての担当ということもあり、テスト勉強がやりづらかった 	<ul style="list-style-type: none"> 7 14 8 4

	評価された点		改善を指摘された点	
学習態度に関して	<ul style="list-style-type: none"> • 高校のとき化学I B-IIをやっていたので、良く分かった • 実験やいろんな授業を受けて再受講したので理解できる部分が前よりも多かった • シビアな授業だとは思いますが頑張ります • 時々板書のためのノートとりでは内容が良くわからなくなるので、先生の話を書き留めなくてはならない 	2	<ul style="list-style-type: none"> • もっと自主的に勉強すべきだった • 時々眠かった • 真面目に小テストに取組めなかった • 復習が必要であることが分かった • 説明を聞き、それを書きとり、さらに理解して、自分の言葉に直して表現するのが大変だった • 復習については、特に授業以外で調べてみたいと思うものがなかった • 他の授業もあるので1回分を3時間復習は無理です 	4
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 早い段階からクーラーをつけてくれたので涼しくてよかった • 空調に配慮してもらえたので授業に集中できた 	4	<ul style="list-style-type: none"> • 4月のうちからクーラーを入れるので、毎日寒い思いをした • 暑すぎて授業に集中できないので、クーラーをつけて欲しい • 暖房が効く部屋なので、冬は活用して欲しい • 教室が狭い • 教室を早く開けてほしい • 他の学科も受けているので授業前に応用生物科学科の連絡事項などを言うことは控えて欲しい 	2 2 5

(5) 獣医学科

1) 対象教員

平成15年度の調査結果との比較を目的に、平成16年度も単一教員により実施されている講義を対象に、教員別にアンケート結果を集計した。なお、実習科目は除外した。対象教員は、平成15年度が16名、平成16年度は17名であるが、平成15年度に調査を実施した教員16名中2名は退官・転任しており、平成16年に新たに対象となった3名分の結果を加えたため、実質的に14名のデータのみで、平成15年度と16年度の比較が可能である。アンケートの集計方法は、基本的に平成15年度実施方法を踏襲した。

2) 教員ごとの講義科目数と受講学生数

平成16年前期・後期に開講された講義科目のうち、37科目分のデータを集計した。各教員の担当科目は、1～6科目であり、6名の教員については単一科目、6名は2科目、3名は3科目、1名は4科目、1名は6科目でのデータが今回の集計結果に反映されている。受講人数については33科目が獣医学科のみの約30名であるが、4科目は、他学科にも開講されており、2学科分約50～60名の集計結果となっている。

3) 集計結果および分析

平成16年度の集計結果を表5-1に示す。それぞれ、「講義方法」に関する設問が1～4で、質問4以外の平均値を講義方法の評価の指標に、「講義内容」に関する設問が5～12で、これらの平均値を講義内容の指標に、さらに「学生自身の学習態度」に関する設問が13～14で、これらの平均値を学生自身の講義に対する学習態度の指標として分析した。学科全体としては、「講義方法」に関して高い評価をした学生が72%（前年69%）、「講義内容」に関しては80%（前年78%）、「学生自身の学習態度」については63%（前年64%）が意欲的に講義に取り組む姿勢がみられた。平成15年度と平成16年度間の集計結果には数値的に有意差はみられない。なお平成16年度に実施された各講義に対して学生が寄せたコメントについては、講義毎に一旦集計し最終的には学科全体分として、表5-2にまとめて示した。以下質問ごとに前年度との比較も交えながら考察する。質問に関連する学生からのコメントは、その都度取り上げて記述する。

【講義方法に関する項目】

○質問1：「講義は聞き取りやすかったですか」

学科全体では、76%（前年度69%）の学生が講義の聞き取り易さについて、高い評価を与えている。教員別では最高97%、最低9%であり、教員間の格差が大きいのは前年度とほぼ同じ傾向であり、教員別にみても昨年の評価とほぼ変化が見られない。講義が聞き取りにくいとの印象を与えている教員について、その授業方法に関するコメントをみると、「声が聞き取りにくい」というものが多く、マイクを使用するなど何らかの改善が求められるであろう。

○質問2：「講義を進めるスピードは適切でしたか」

学科全体では76%（前年度76%）の学生が、講義のスピード適切であったとの評価を与えている。

教員別にみると最高97%、最低19%であり、この項目に関しても質問1同様、格差が大きいと同時に、最高・最低の教員は質問1と同じである。評価の低かった講義に関してコメントを精査してみると、「内容が多い」とのコメントがあるため、おそらくスピードが速いと感じている学生が多いのではないかと推測される。質問④の結果も考慮すると、プリントやプレゼンテーションスライド等、何らかの補助教材を事前に用意し、重要なポイントに絞って、適切なスピードで口述する等の工夫が必要なのではないかと思われる。基本的に教員間の評価の高低は、昨年度とほぼ同傾向である。なお昨年度との比較で、20%以上の評価の昇降があった教員はそれぞれ1名ずつあった。

○質問3：「講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか」

学科全体では、67%（前年度65%）の学生が講義に利用された視聴覚機器が適切に利用されていたと感じているようであった。本項目に関しては、学科全体でもやや低い値であり、教員別にみても、高い評価を得ている教員と評価が低い教員の分布も昨年度とほぼ同様である。最高は97%、最低21%であった。学生のコメントから判断すると、評価が低い授業においては、視聴覚機器の使用がない、あるいは板書が読みにくいなどのコメントが多い。全体的にみても、板書に関するクレームは、相当数に登っている。反対に視聴覚機器の使用に関して高い評価を得ている講義は、スライド、プリント類が充実していることが容易に推測できるコメントが寄せられている。このように現在の学生により高い評価を得ている講義方法は、「事前準備が十分になされ、視聴覚機器を効果的に使用して進行されるもの」であり、逆に「教科書を口述し、要点を板書する」というスタイルは、現在の学生には好意的に受け入れられていない。この傾向はむしろ今後も加速すると予想されるので、早急な改善が望まれる。

○質問4：「教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか」

本質問項目は、「授業方法の評価」という観点からは適正さを欠く項目ではあるが、分析結果のみを記載する。学科全体では、29%（前年度39%）の学生が、「教員が注意を与えていた」と回答している。この項目の数値が高い教員（80%、72%）の講義方法に関する質問1～3の平均値はそれぞれ、16%、49%でありむしろ低い数値である。その他の教員の数値は、ほぼ30%以下にとどまっている。従って講義中に注意を与えるよりも、むしろ講義方法を改善することにより、多くの学生が講義に集中できる環境を提供し、本質問項目にあるような学生を減らすことが、より本質的な講義改善につながるものと思われる。

講義方法に関する評価（質問1～3）を総合的にみると、高い評価を与えた学生は、平均で72%（前年度69%）であり、最高値は94%、最低値は16%である。上記のように、高い評価が得られている教員の講義では、事前の視聴覚機器、プリント類等の準備が充実しており、これが教員の熱意として学生に好意的に受け止められ、講義に集中して望んでいる構図が形成されているものと思われる。極論ではあるが、「講義に対する教員の熱意ある取り組みは、必ず学生に伝わり、そのことが結果的に講義全体の評価を高める」ということであろう。平成15年度と16年度間で、集計結果に大差が見られないことは、講義方法が教員によりほぼ固定された状態にあり、平成15年度の結果をもとに、効果的な改善がなされたとはいえないことを物語っているのかも知れない。しかしながら

平成16年度に新たに集計された教員の授業方法に関する数値が73～93%と学科平均を上回っていることなど明るい材料もある。講義方法の改善は、各教員の裁量により実施されるべきもので、組織的な取り組みが困難な部分が多い。改善が必要と評価されている講義については、教員各自で質問①～③のいずれかの項目を改善するための方策を是非模索して頂きたい。各質問項目は決して独立したのではなく、必ず「講義方法」全体の評価改善につながると思われる。

【講義内容に関する項目】

○質問5：「配布したシラバスは、講義の内容・進め方についてわかりやすく書いてありましたか」

講義内容に関する設問で、学科全体として学生の満足度が最も低かった項目である。学科平均は66%（前年度56%）である。シラバスに関する満足度が低いという傾向は、昨年同様である。シラバスに関する評価が高い教員（87%、90%）の講義では、学部フォームよりも詳細なシラバスを独自に作成し、事前に配布しており、後述する「学生自身の学習態度に関する項目」でも他の教員と比較して非常に高い数値が得られている。またこのことは、学生のコメントからも伺い知ることができ、シラバスの充実が、学生の講義科目に係る学習意欲向上に直結することがわかる。講義単位には、予習・復習時間が含まれることを考慮するとその意味は極めて大きいといわざるを得ない。今後この様な、高い評価を得ている講義での取り組みを参考にしながら、学科単位あるいは教員個人で、現在使用しているシラバスの見直しが必要であろう。

○質問6：「この講義全体の目標はよく理解できましたか」

学科平均では、91%（前年度92%）の学生が講義の目標をよく理解していると思われる。本項目に関しては前年度同様、講義目標は良好に学生に伝達されているようである。

○質問7：「この授業に興味を持ってましたか」

学科平均では、90%（前年度92%）の学生が講義内容に興味を持てたと回答している。学生のコメントにもこのことを裏付けるコメントが多く見られる。先の講義方法に関して満足度の低い講義においても講義内容については、興味を持って講義に望んでいる学生が多いことは、学生が明確な目的意識を持って講義に取り組んでいることを示唆している。

○質問8：「毎回の授業のねらいはその都度明確にされておりましたか」

学科平均では82%（前年度80%）の学生が講義のねらいが明確であったと回答している。質問の内容については、質問6の「目標」と本項目の「ねらい」の位置づけが曖昧のように感じる。教員別の結果で、質問6の数値と本質問の集計結果が連動している点からも学生が回答の際に質問6とほぼ同様の動向で回答していると推測される。

○質問9：「毎回の授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか」

学科全体で90%（前年度91%）の学生が講義内容は準備されたものであったと回答している。質問1～3の方法に関する評価があまり高くなくても、内容については準備されたものであると殆どの学生が評価している。このことは講義方法の改善により、予想以上に講義効果が高まることを示唆するものかもしれない。講義内容については、「教科書以外の内容について講義して欲しい」と

いうコメントがある反面、「教科書がなく不安を感じた」と述べられているものもある。適度に教科書以外のよりup dateな話題も取り入れつつ、ある程度体系付けがされた内容で講義を進めるといふバランスが必要なかもしれない。

○質問10：「授業での説明は理解しやすかったですか」

学科全体で82%（前年度81%）の学生が説明は理解しやすかったと回答している。ほぼ良好な結果である。

○質問11：「授業の内容は難しく（難易度）感じましたか」

学科全体では70%（前年度67%）の学生が難易度に関して適切であったと回答している。難易度に関する回答動向は、次の「講義内容の量」と比較的連動していると思われる。内容量が過重である場合に、全てを理解することが困難となり、難しいと感じる場合が多いことが、集計結果と学生のコメントから推測できる。15回の講義回数でどの程度の内容を講義で理解させるかをあらかじめ十分検討しておき、それでも学科目として不足する部分については、「シラバス」「補助教材」等により予習・復習を通じて理解させるような工夫が必要であろう。

○質問12：「授業内容の量は、適切でしたか」

学科全体では68%（前年度66%）の学生が内容量について適切であったと回答しているが、この数値はシラバスに関する質問に次いで低い数値である。質問11で既に述べたように、事前の教員側の講義計画、不足分を補う補助教材の充実等が必要であろう。その他、学生が興味のある部分についての講義がなかったとのコメントにも一考の余地があるように思われる。

講義内容に関する項目（質問5～12）について総合的にみると、高い評価を与えた学生が学科全体では80%（前年度78%）であり、最高91%（2名）、最低58%であった。講義内容については、全体として平成15年度同様、ほぼ良好な状態の講義が実施されていると判断しても良いと思われる。今後さらに改善が求められる点としては、シラバスの改善が挙げられる。シラバスの活用により、講義内容量の過重を軽減し、重要なポイントを明確にすることで、学生の講義に対する理解を深めることが期待できると同時に、「予習・復習」のための動機付けとしても利用できると思われる。本来の姿としては、高い評価を得ている教員のシラバスを参考に、各教員が各自の講義のより詳細なシラバスを作成することが望まれる。しかしながら学科の問題として、シラバスのあり方を再検討し、より有用なシラバスを組織として作成することも必要かもしれない。今後の取り組みが求められる。

【学生自身の学習態度に関する項目】

○質問13：「この授業に興味をもち、自主的に調べたことがありますか」

学科全体では、53%（前年度54%）の学生が講義の内容について興味をもち自主的に調べたことがあると回答しており、前年度と殆ど変化がない。教員別にみると、最高77%、最低21%である。昨年同様、学生に自主的な学習に向かわせるための動機付けに、学科全体で成功しているとはいえない状況である。

○質問14：「この授業について、予習しましたか」

学科全体では、60%（前年度60%）の学生が予習をしたと回答している。特筆すべきは、1名の教員の講義においては95%の学生が予習を行ったと回答している点である。この講義では、シラバスを独自に整備していることに加え、毎回予習に関する質問の時間を設けているようであり、これが学生の自主的学習を促すことに寄与しているようである。

○質問15：「復習をしましたか」

学科全体では、76%（前年度77%）の学生が復習したと回答している。この項目に関しては、比較的高い数値といえる。定期試験前の復習が回答に含まれていることから、本項目に関しては、比較的高い数値になるものと予想される。

学生自身の学習態度に関する項目（質問13～15）の学科全体の平均値は63%（前年度64%）である。学生が講義内容を予習、復習しかつ興味を持った項目について自主的に調べることは、講義内容を十分理解するための不可欠の要素であるが、十分な動機付けができていないと難しい。学習意欲向上のための取り組みとして、成功している講義を参考に分析すると、前述の「シラバスの充実」の他、「質問形式を授業の一部に取り入れる」、「毎回、予習項目に関する質問を与え、項目の区切りごとに小テストを実施する」などの工夫がなされているようである。このような成功例を参考に学生の学習意欲を刺激し、予習・復習の程度を明確に評価に反映させることは、現在の単位設定が予習・復習時間を含むことを鑑みても必要・不可欠であろう。このことを徹底させることは、各学科目の理解を深めることにも直結する。一方、現在の獣医学科のカリキュラムは、基礎→応用→臨床関連科目の積み上げ方式を基本としている。獣医学科に入学した学生の多くは、主に臨床事項に興味を有していると予想されるため、低学年で履修する基礎科目や応用科目の講義においても、その講義内容の理解が将来的に臨床科目の理解や、実社会の業務において如何に必要なのかという点を明確にして、目的意識を持続させる工夫も必要かもしれない。

【その他の項目】

教室の空調施設に関するクレーム、獣医学科以外の受講生に講義室の変更や休講の連絡が伝わっていないなどのコメントが見られた。空調施設に関しては、断続的に改善されているため、今後完備されてゆくことと思われる。一方、他学科の受講生を受け入れている講義については、講義に関する情報は平等に伝達されるよう十分な配慮が必要である。

【平成15年度と16年度の比較結果から考察する授業評価報告書のあり方について】

平成16年度は、平成15年度の「学生による授業評価報告書」の集計方法を踏襲し、2年間の比較を行った。その結果は端的には、多くの質問項目において、2年間での変化は極めて乏しいということである。平成15年に学生から高く評価された講義は、平成16年度も高く、評価が低かった講義では、各項目別にみても、依然低い評価が継続している。学生の評価が低い講義が必ずしも、「悪い講義」であるとは言えない部分があるが、教員の講義方法やその内容に満足して学生が講義に望む方が、結果的にはその学科目への興味喚起や理解にはプラスに働くであろう。15回の講義で、その学科目の内容を全て理解・記憶することは、不可能である。むしろ講義では「如何にその科目に

興味を持たせ、自己学習のための動機付けを行うか」という点に主眼をおいて、そのための最良の方法を模索することが重要かも知れない。本学科の成功例に学ぶと、視覚を刺激する補助教材を活用し、さらに動機付けのための道筋としての「シラバスの充実」や「小テスト等の課題を適切な量で与える」などの取り組みが、良好な結果を導いているように思われる。

「学生による授業評価報告書」は、このような講義方法や内容の改善を促進する目的で取りまとめられているものである。本目的を一層明確にするため、平成15年度には初めて教員別に集計結果を報告書としてまとめ、さらに本年度はその効果を調査するために、2年間の結果を比較・検討したが、結論としては、平成15年度の提言が平成16年度の授業改善には直結しているとは言い難いものであった。その原因として、本報告書の内容が十分各教員に伝わっていない（あるいは報告書自体が読まれていない）こと、匿名性に配慮したため旧FD委員会委員（現評価室FD部門委員）以外は、アルファベット表記された教員が特定できず、報告書を読んでも、教員各自どれが自分のデータか把握できにくいため、そのことで結果的に本報告書が「講義改善の動機付け」に寄与しにくいことなどがあげられる。しかしながら、匿名性の排除には十分な議論と合意形成が必要である。このことから、本報告書がより有用に活用されるためには、最小の教育単位である各学科で、今回の内容を十分検討し、組織としての改善方法を検討して頂き、さらに必要であれば、評価室FD委員より、教員に個別に各自のデータはどれに当たるのかを通知して、教員各自で必要な改善方法を模索して頂くなどの方策も必要であろう。

表5-1 教員別の集計結果（獣医学科）

質問番号	質問内容	担当教員															平均		
		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O		P	Q
【この授業方法に関する項目】																			
質問1	講義は聞き取りやすかった	88	9	42	66	79	95	85	97	71	97	93	22	92	86	97	92	79	76
質問2	講義のスピードは適切だった	90	19	47	56	54	89	89	92	75	97	93	83	72	80	90	48	79	74
質問3	視聴覚機器は適切であった	57	21	36	25	51	97	70	74	62	78	89	49	73	87	93	78	93	67
質問4	私語などを注意していた	30	80	24	72	14	33	25	18	36	6	10	10	34	28	17	29	33	29
	平均 (1-3)	78	16	42	49	61	94	81	88	69	91	92	51	79	84	93	73	84	72
【講義の内容に関する項目】																			
質問5	シラバスはわかりやすかった	60	39	59	59	61	90	85	80	57	50	81	57	73	51	87	66	75	66
質問6	講義の目標は理解できた	91	74	89	89	90	97	100	97	84	84	96	80	87	89	100	97	97	91
質問7	講義に興味を持てた	89	86	82	82	92	100	97	95	77	81	93	88	92	93	97	92	100	90
質問8	ねらいは明確にされていた	69	54	56	70	85	100	96	94	79	77	96	69	79	83	97	93	97	82
質問9	授業の内容は準備されていた	94	80	64	87	96	99	100	99	89	94	96	76	86	85	100	97	83	90
質問10	説明は理解しやすかった	93	53	66	77	84	97	88	89	76	81	96	59	81	84	97	97	82	82
質問11	難易度は適切であった	81	37	80	47	44	57	67	81	80	91	82	76	82	73	73	78	69	70
質問12	内容の量は適切であった	70	38	73	26	43	86	72	79	53	94	79	67	82	80	80	58	83	68
	平均 (5-12)	81	58	71	67	74	91	88	89	74	82	90	72	83	80	91	85	86	80
【学生自身の学習態度に関する項目】																			
質問13	自主的に調べたことがある	30	44	50	43	44	66	67	62	21	25	64	50	52	77	57	70	76	53
質問14	予習した	51	52	82	68	51	99	70	72	33	41	46	55	66	47	63	56	66	60
質問15	復習した	70	89	89	80	77	97	84	84	47	56	75	66	75	68	80	71	85	76
	平均 (13-15)	50	61	73	64	57	87	74	73	34	41	62	57	64	64	67	65	76	63

数値は左の評価結果に該当する割合（％）を示す。

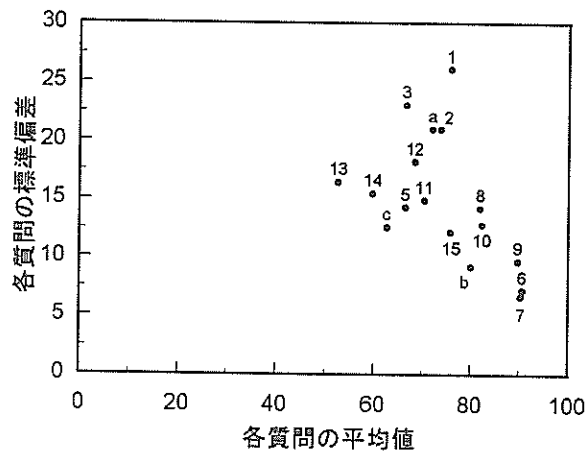


図 5 - 1 各質問ごとの全教員の平均値とその標準偏差の関係

図内の各数字は質問の番号を示し、aは質問1から3の、bは質問5から12の、cは質問13から15のそれぞれ平均値を示す。

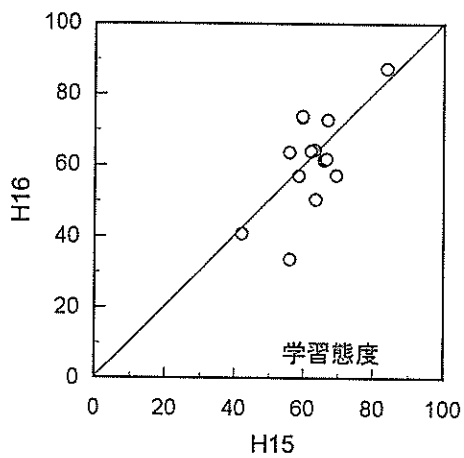
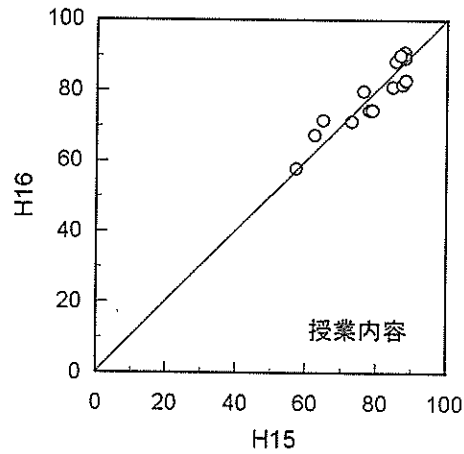
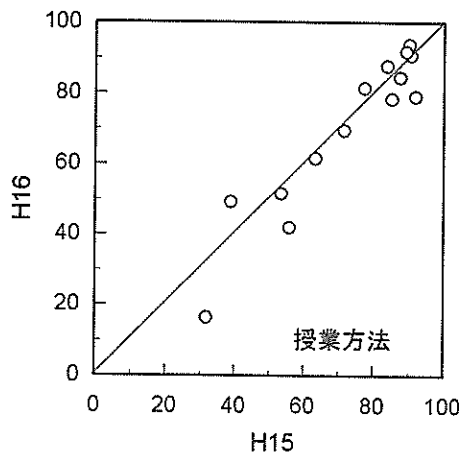


図 5 - 2 各教員における質問内容項目毎の平均値の平成15年度と16年度の比較
それぞれの点は教員を示す。

表5-2 学生のコメント (獣医学科)

	評価された点		改善を指摘された点	
講義方法に関して	• 説明が分かり易かった	14	• 板書が解りにくい	43
	• 教科書以外の説明が良かった	1	• 説明が分かりにくい	3
	• スライドが役立った	4	• 聞き取りにくい	5
	• 講義が工夫され説明が理解し易かった	12	• プロジェクターが見にくい	2
	• プリントが役立った	10	• 進行が遅い	3
	• 板書が役立った	3	• 教科書以外の説明が欲しかった	4
	• OHPが役立った	1	• プリントが分かりにくい	2
	• 楽しい授業だった	1	• スライドの進行が早い	7
	• スライドの進行を止めてもらったのでノート作成に役立った	1	• プリントを配布して欲しい	5
	• 複数の専門の先生を招聘したスタイルが評価できた	4	• スライド使用の際板書用に電気をつけて欲しい	1
			• 板書をとる機会が少ない	1
講義内容に関して	• 講義内容が面白かった	32	• 内容のポイントがわかりにくかった.	5
	• 配布資料が役立った	6	• 量が多すぎた	3
			• 内容に足りない部分を感じた	2
			• 難しい内容があった	1
			• もっとやる気を	1
学習態度に関して			• 予習方法が分からなかった	2
その他			• カリキュラムの整合性を	2
			• 補講等の連絡不備	7
			• 試験に関する事項	3
			• 教室の不備	6
			• 教科書に関する事項	2
			• 開講時間の遵守を	1

4. 授業評価の総括

- (1) 平成16年度の「学生による授業評価」は、平成15年度と同様、講義、実験・実習についてはほぼ全員の農学部教員により実施された。回答用紙の回収から集計作業までスムーズに行われた。本報告書は、農学部にて平成17年度新設された評価室のFD担当委員を中心に取りまとめた。その内容は、平成15年度に引き続き、「学生による授業評価」を教員個人別に集計し、2ヶ年の比較を主眼としたものである。学科ごとの評価結果のまとめが示すように、両年度において授業方法と授業内容に関して学科平均として概ね良好な評価がなされている。対象としたクラス・サイズは10名以下の少人数から複数学科から成る100名以上の多人数まで、様々な「母集団」から成る。本報告書は教員個人を単位として評価結果を複数科目の平均値として集計しているため、このような受講生数や開講年次の違いなどの影響が捉えられなかった可能性も考えられる。
- (2) 講義の方法についてみると、視聴覚機器の充実に伴って、マイクロソフト社製プレゼンテーションソフトを利用した授業が増えており、写真などを効果的に使って授業がなされ、理解を深めるのに役だっている点は評価できる。この場合、重要な事項については、併せてプリントの配布や板書による説明が望まれている場合がある。板書について、改善のコメントが多い。例えば、板書は多くても少なくても不満となり、見やすくポイントが整理され、しかも適切な量であれば学生の満足度も高くなる。講義資料についても同様に、多すぎると「どこが大切なのか良くわからない」などのコメントがあり、重要なポイントをまとめたレジュメ資料を希望する傾向がここ数年強い。両年度を比較すると、特に「早口で聞き取りにくい」、「板書が見づらい」などのコメントに対しては教員にとって改善が難しい面もあると思われるが対応策を期待したい。
- (3) 講義内容については、主として1年次の基礎科目では教えるべき分量（内容）が多くなっていくが、教員の工夫により分かり易く興味を持てるような講義がなされているのが窺える。2、3年次のより専門的な科目では、身近な事柄、先端的技術、ニュースで取り上げられているようなタイムリーな話題を取り入れた講義の評価が高い。
- (4) 学部共通の講義室として、15教室（収容人数：40～270人）がある。16年度に空調機が各講義室ほとんど設備された結果、15年度に多かった空調機設置に対する要望が16年度は少なくなり、勉学に良好な環境となっている。
- (5) 授業評価は無記名のアンケート方式であるが、学生諸君から真面目で前向きな回答が多く寄せられている。本報告書に記載された評価結果および学生からコメントから、授業方法や授業内容に対する学生からの要望、評価や不満、授業の理解度や関心などが読み取れ、教員による授業の進め方を改善する上で貴重な情報源として活用できるものと思われる。

5. 農学部評価室 (FD部会) 委員名簿

委員長 水 光 正 仁 (副学部長 評価室長)

委員 足 立 勝 (食料生産科学科)

委員 伊 藤 哲 (生物環境科学科)

委員 近 藤 文 義 (地域農業システム学科)

委員 太 田 一 良 (応用生物科学科 FD担当室長補佐)

委員 内 田 和 幸 (獣医学科)

委員 高 木 正 博 (附属自然共生フィールド科学教育研究センター)

「資料1」

平成16年度「学生による授業評価」調査票（質問用紙）

科目名： _____ ， 学科名： _____ ， 学年： _____

この調査票は、本学部の授業内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。複数回答しても結構です。また、それぞれの質問の項目で、指定された箇所以外でも、とくに評価できる点あるいは改善すべき点があれば、「記述欄」に書いて下さい。」

「この授業方法に関する項目」

1) 講義は、聞き取りやすかったですか。

5：聞き取りやすかった，4：早口で聞き取りにくかった，3：声が小さく聞き取りにくかった，2：その他の理由で聞き取りにくかった。(1～0はなし)

* 2に丸印をつけた人は、どのような点が聞き取りにくかったか、記述欄に記入して下さい。

2) 講義を進めるスピードは適切でしたか。

5：適切，4：早過ぎる，3：遅すぎる。(2～0はなし)

3) 講義において板書の仕方や配布プリントあるいはOHP（液晶プロジェクター）などの視聴覚機器は適切でしたか。

5：適切であった，4：板書が読みづらかった，3：OHPが見にくかった，2：プリントやOHPは使用されなかった。(1～0はなし)

4) 教員は講義の進行を妨げるような行為（私語など）があった場合、注意していましたか。

5：していた。，4：していなかった。，3：そのような私語などはなかった。(2～0はなし)

「講義の内容に関する項目」

5) 配布したシラバスは、講義の内容・進め方についてわかりやすく書いてありましたか。

5：わかりやすかった，4：わかりにくかった，3：シラバスを読んでも内容が良く分からなかった，2：シラバスについて知らなかったので、受講前に読んでいなかった。(1～0はなし)

6) この講義全体の目標はよく理解できましたか。

5：理解できた，4：理解できなかった。(3～0はなし)

7) この授業に興味を持ってましたか。

5：持てた，4：持てなかった。(3～0はなし)

* 4に丸印をつけた人は、興味もてなかった理由は何ですか？ 記述欄に記入して下さい。

8) 毎回の授業のねらいはその都度明確にされていましたか。

5：されていた，4：されていなかった。(3～0はなし)

9) 毎回の授業の内容はよく準備されたものと感じられましたか。

5 : 準備されていた, 4 : 準備不足。(3 ~ 0 はなし)

10) 授業での説明は理解しやすかったですか。

5 : 理解しやすかった, 4 : 理解しにくかった。(3 ~ 0 はなし)

* 4 に丸印をつけた人は, どのような点が理解しにくかったか, 記述欄に記入して下さい。

11) 授業の内容は難しく(難易度)感じましたか。

5 : 難しかった, 4 : 適切, 3 : 易しすぎた。(2 ~ 0 はなし)

* 5 に丸印をつけた人は, どのような点が難しいと感じたか, 記述欄に記入して下さい。

12) 授業内容の量は, 適切でしたか。

5 : 多すぎる, 4 : 適切, 3 : 物足りなかった。(2 ~ 0 はなし)

「学生自身の学習態度に関する項目」

13) この授業に興味を持ち, 自主的に調べたことはありますか。

5 : ある, 4 : ない。(3 ~ 0 はなし)

14) この授業について, 予習しましたか。

5 : した, 4 : 少しした, 3 : しなかった。(2 ~ 0 はなし)

* 3 に丸印をつけた人は, 何故予習しなかったのか, その理由を記述欄に記入して下さい。

15) 復習をしましたか。

5 : した, 4 : 少しした, 3 : しなかった。(2 ~ 0 はなし)

* 3 に丸印をつけた人は, 何故復習しなかったのか, その理由を記述欄に記入して下さい。

◎アンケートに掲げて欲しい項目がありましたら、回答用紙のⅡ（下の枠内）に書いて下さい。

「記述欄」

この授業について、評価あるいは改善すべき点があれば記入してください。

質問1で2に丸印をつけた理由： _____

質問7で4に丸印をつけた理由： _____

質問10で4に丸印をつけた理由： _____

質問11で5に丸印をつけた理由： _____

質問14で3に丸印をつけた理由： _____

質問15で3に丸印をつけた理由： _____

1～15の項目で、その他に評価できる点あるいは改善すべき点があれば下記に番号を記入の上、書いて下さい： _____

学生の皆さんのご協力有難うございました。このアンケートは、今後の授業方法の改善に必ず役に立てるように致します。

農学部FD委員会委員長 太田 一 良

「資料2」

平成16年度「学生による授業評価」実験・実習に関する調査票（質問用紙）

科目名： _____, 学科名： _____, 学年： _____

この調査票は、本学部の実験・実習内容・方法を一層充実・改善するための資料となるものです。記入にあたっては、学生諸君の素直な評価をお願いします。なお、この調査はあなたの成績と一切関係はありません。

下記の項目の質問について、別紙の「学生による授業評価」調査票（回答表）に [] の中から適切と思われる番号の丸数字を塗りつぶして下さい。また、この実験・実習に関する感想や評価できる点あるいは改善すべき点、があれば、回答表のコメント欄に記入してください。

[5 : 非常に満足 4 : やや満足 3 : 普通 2 : やや不満 1 : 非常に不満]

A

「実験・実習に関する項目」

1. 実験・実習に関するシラバスは、適切であった。
2. 実験・実習の時間設定が適切であった。
3. 実験・実習に関する資料（実験書あるいはプリント資料）は学生に理解できるように工夫されていました。
4. 実験・実習に関する説明は要点が理解できる説明であった。
5. 機械・器具の使用法の説明が明確であった。
6. 実験・実習前あるいは実習中の教員の説明は適切であった。
7. 実験・実習に教員としての熱意が感じられた。
8. 学生の質問に丁寧に対応していた。
9. 実験・実習器具・機械が適切に配分されていた。
10. 不適切（不真面目な学生も含む）な実験・実習をしている学生にはその都度、教員は注意する等の指導をしていた。
11. レポートの書き方の指導が適切であった。
12. レポートの考察や学習課題等の助言がなされていた。
13. レポートの評価（訂正等）は適切であった。
14. あなたは実験を通じて、実験技術等が向上しました。
15. ティーチングアシスタントは適切な指導補助を行ないました。

◎アンケートに掲げて欲しい項目がありましたら、回答用紙のⅡ（下の枠内）に書いて下さい。

学生の皆さんのご協力有難うございました。このアンケートは、今後の授業方法の改善に必ず役に立てるように致します。

農学部FD委員会委員長 太田 一 良

